

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-4

< 第34週 > インフルエンザの定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い / その他最新動向



注目すべき感染症  
P.5-9

< 流行性角結膜炎 > 夏季に向けて報告数が増加し、第24週以降はほぼ昨年を上回る状態が続いている

< 腸管出血性大腸菌感染症 > 本年第34週までの累積報告数は2,190例である



病原体情報  
P.10-12

ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2005年 / A群コクサッキーウイルス6型 2005年 / エンテロウイルス71型 & A群コクサッキーウイルス16型 2005年



速報  
P.13-18

日本のAIDS患者・HIV感染者の状況 - エイズ動向委員会委員長コメント(要旨) / マラリア 1999年4月～2004年12月 2005年7月1日現在)



海外感染症情報  
P.19-20

ギニアでの黄熱流行 / A型肝炎ワクチンを小児の定期予防接種に導入すべき時期か?



感染症の話  
P.21

< 今週はお休みです >



読者のコーナー  
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(34週)  
P.22-28



34週のデータ  
P.29-40



## 発生動向総覧

\*「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(平成15年11月5日施行)により、対象疾患、分類が一部変更されました(2003年第43号「速報」参照)。

### <第34週コメント> 9月1日集計分

#### 全数報告の感染症

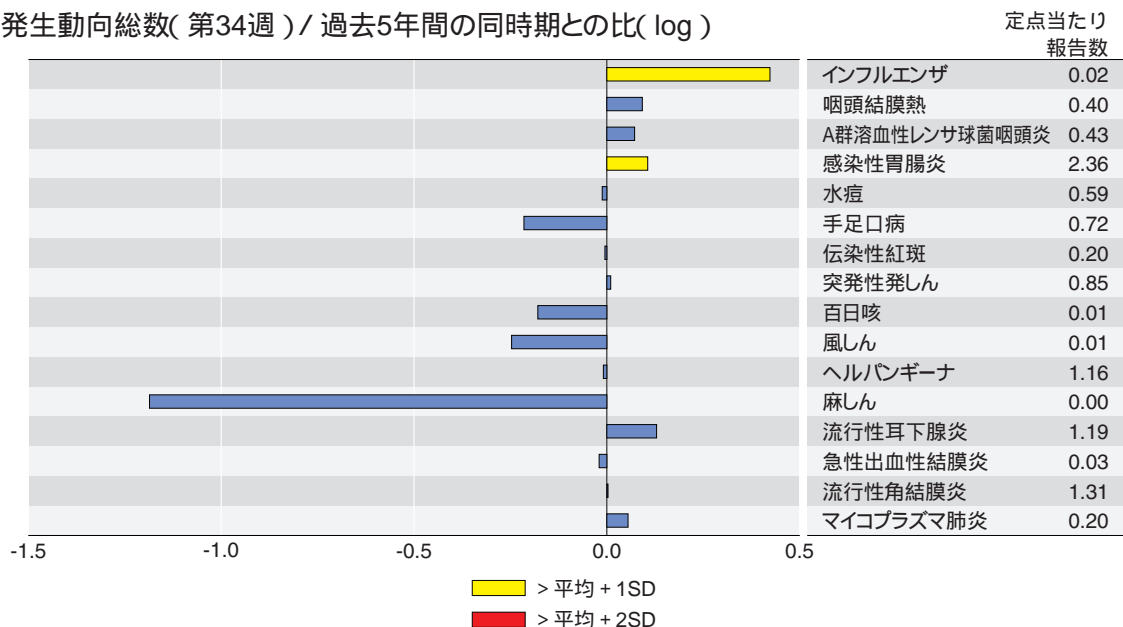
注意:これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が集計の期日以降に届くこともあります。それらについては発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることとなります。宜しく御理解下さい。

- 1類感染症: 報告なし
  - 2類感染症: コレラ 2例(推定感染地域: 国内1例、疑似症1例)  
細菌性赤痢 8例(推定感染地域: 国内1例、インド2例、中国1例、フィリピン1例、ベトナム1例、ヨルダン1例、不明1例)  
腸チフス 1例(推定感染地域: インドネシア)
  - 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 177例(うち有症者125例)  
報告の多い都道府県: 岩手県(21例)\*、愛知県(18例)、東京都(17例)、大阪府(17例)、岡山県(10例)  
\*うち14例は保育施設に関連した集団発生  
血清型・毒素型: O157 VT1・VT2(55例)、O26 VT1(46例)、O157 VT2(44例)、O157 VT1(11例)、O111 VT1・VT2(3例)、O103 VT1(2例)、O63 VT2(1例)、O91 VT1(1例)、O26 VT1+O111 VT1(1例)、その他(13例)  
年齢: 10歳未満(90例)、10代(18例)、20代(22例)、30代(18例)、40代(10例)、50代(4例)、60代(11例)、70歳以上(4例)
  - 4類感染症: デング熱 1例(推定感染地域: フィリピン)  
日本紅斑熱 1例(鹿児島県)  
マラリア 1例(三日熱、推定感染地域: エチオピア)  
レジオネラ症 2例(30代1例、60代1例)  
E型肝炎 1例(推定感染地域: ミャンマー)
  - 5類感染症: アメーバ赤痢 9例  
推定感染地域: 国内8例、台湾1例  
推定感染経路: 経口3例、性的接触(異性間)2例、不明4例  
クロイツフェルト・ヤコブ病 2例(ともに孤発性)  
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例(80代、死亡)  
後天性免疫不全症候群 11例(無症候8例、AIDS 3例)  
推定感染経路: 性的接触8例(異性間4例、同性間4例)、不明3例  
推定感染地域: 国内7例、不明4例  
梅毒 7例(早期顕症I期2例、早期顕症II期3例、無症候2例)  
破傷風 2例(60代1例、70代1例)
- (補)他に、細菌性赤痢1例の報告があったが削除予定。また、報告遅れとして、アメーバ赤痢1例(死亡)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例(30代)、急性脳炎1例(病原体不明(8カ月))の報告があった。

## 定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関( 定点 )から報告され、疾患により小児科定点( 約3,000カ所 )、インフルエンザ( 小児科・内科 )定点( 約5,000カ所 )、眼科定点( 約600カ所 )、基幹定点( 約500カ所 )に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

発生動向総数( 第34週 ) / 過去5年間の同時期との比( log )



当該週と過去5年間の平均( 過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均 )の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

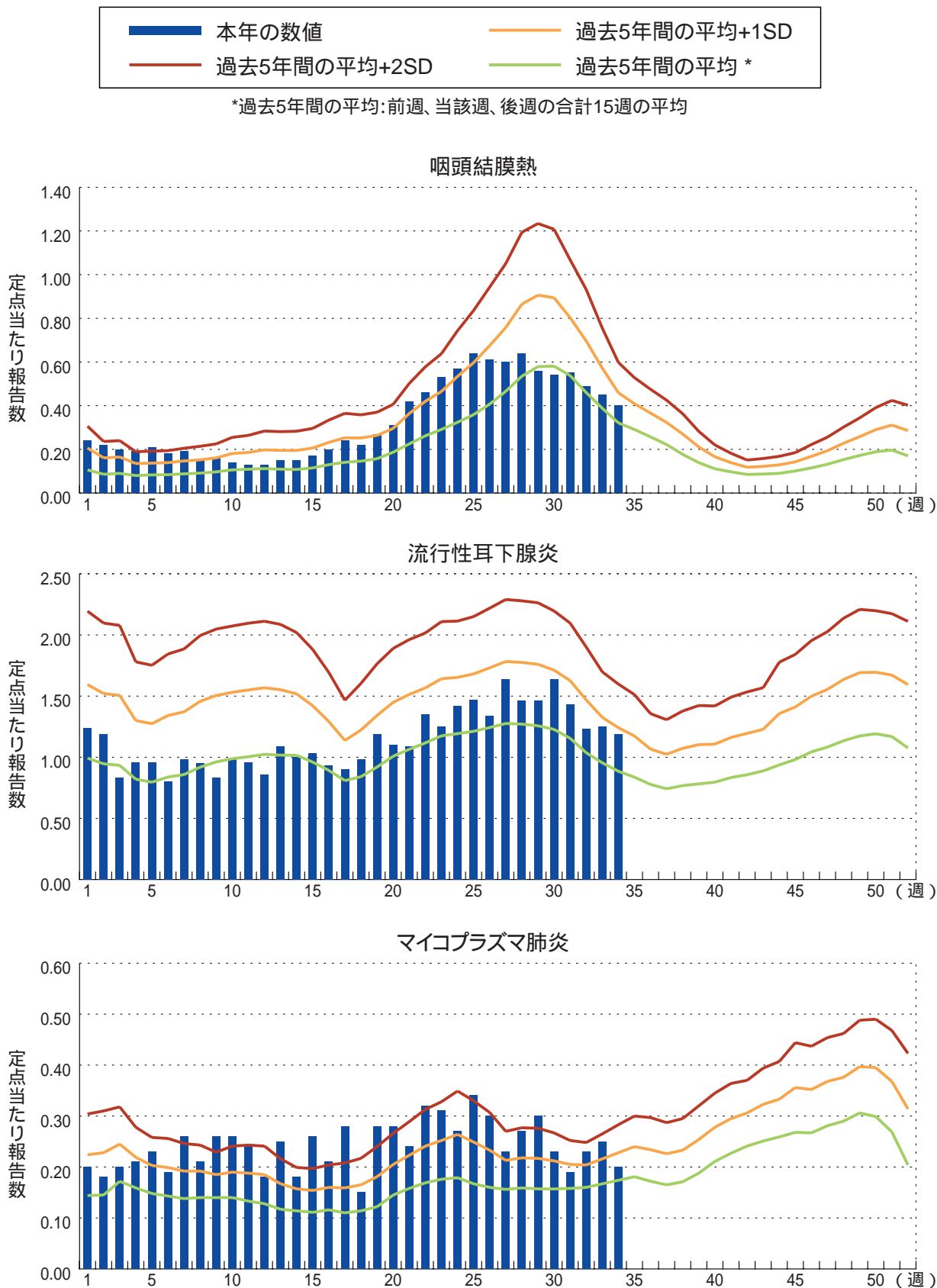
**インフルエンザ定点報告疾患** : 定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期( 前週、当該週、後週 )と比較してやや多い。都道府県別では沖縄県( 1.38 )、鹿児島県( 0.04 )、茨城県( 0.03 )、新潟県( 0.03 )が多い。

**小児科定点報告疾患** : 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は3週連続して減少した。都道府県別では山梨県( 1.5 )、大分県( 1.3 )、広島県( 1.2 )が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では福井県( 1.23 )、宮崎県( 1.03 )、北海道( 0.94 )が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では宮崎県( 6.8 )、大分県( 5.6 )、三重県( 4.2 )が多い。水痘の定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では福井県( 1.3 )、三重県( 1.2 )、佐賀県( 1.1 )が多い。手足口病の定点当たり報告数は第28週以降、減少が続いている。都道府県別では鳥取県( 4.3 )、新潟県( 2.6 )、山口県( 2.6 )が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では鹿児島県( 0.80 )、青森県( 0.52 )、福岡県( 0.42 )が多い。百日咳の定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では福岡県( 0.08 )、高知県( 0.06 )、佐賀県( 0.04 )が多い。風しんの定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では青森県( 0.07 )、岡山県( 0.04 )、滋賀県( 0.03 )、宮崎県( 0.03 )、沖縄県( 0.03 )が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第28週以降、減少が続いている。都道府県別では新潟県( 3.6 )、長野県( 3.0 )、青森県( 2.7 )、宮崎県( 2.7 )が多い。麻しんの定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では青森県( 0.02 )、福岡県( 0.02 )が多い。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では石川県( 3.5 )、香川県( 3.3 )、沖縄県( 3.2 )が多い。RSウイルス感染症は、ゼロ報告を含めて32都道府県から51例の報告で増加したが、特に沖縄県からは21例の報告がみられた。年齢別では、1歳以下の報告数が全体の約80%を占めている。

**基幹定点報告疾患** : マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では福島県( 0.86 )、岡山県( 0.80 )、山口県( 0.67 )が多い。

( 補 )東京都からの風しんの報告は取り消し予定。

図. 主要定点把握疾患の過去5年間との週別比較( 2005年第1 ~ 34週 )  
 青のバーで示す本年の定点当たり報告数が赤のラインを超えているときには、過去5年間の週と比較してかなり多いことを示す。





# 注目すべき感染症

## 流行性角結膜炎

流行性角結膜炎( EKC : epidemic keratoconjunctivitis )は、アデノウイルスD群である8、19、37型に加えて、E群の4型、B群の3、11型などを原因ウイルスとする急性の濾胞性結膜炎である。感染経路は流涙、眼脂で汚染された手指やタオル類からの接触感染であるが、感染力は強く、医療機関、職場、施設などで集団感染がみられることがある。

8～14日の潜伏期間を経て急性に発症し、流涙、眼脂を自覚するようになる。眼瞼結膜の強い充血と濾胞がみられ、眼瞼の浮腫を伴う。発症は偏眼性であるが、感染力が強いため、数日を経て他眼にも波及することが多い。結膜炎発症後1週間を過ぎると、角膜点状上皮混濁を起こす。また、耳前リンパ節の腫脹が高頻度で見られる。通常は1～2週間で治癒し、視力障害を残さないことが多い。しかし、新生児や乳幼児が発症すると偽膜性結膜炎を起こし、細菌の混合感染によって角膜穿孔に至る場合があるので、注意が必要である。治療では、対症的に抗炎症剤や抗菌剤の点眼が行われ、角膜混濁がみられる場合にはステロイド剤の点眼薬が用いられる。

時期的には夏季が中心であり、1995～2004年の過去10年間では、報告のピークは第34週が7回、第33週が2回、第31週が1回であった( 図1 )。年別では、2000年以降の年間の累積報告数および定点当たり累積報告数は、ともに年々減少がみられている( 図2 )。2005年の前半も2004年の報告数をさらに下回っていたが、その後夏季に向けて報告数が増加し、第24週以降はほぼ昨年を上回る状態が続いている。年齢別では、2000年、2001年では9歳以下が最多であり、次いで30代の順であったが、2002年以降は30代が最多となり、次いで9歳以下、20代の順となっている。また常に、10代より40代、50代の方が報告数は多い( 図3 )。

2005年の定点当たり報告数を地域別にみると、宮崎県で多い状態が続いていたが、夏季に入って愛媛県や沖縄県での増加が目立っている( 図4 )。今後とも発生動向には注意が必要である。

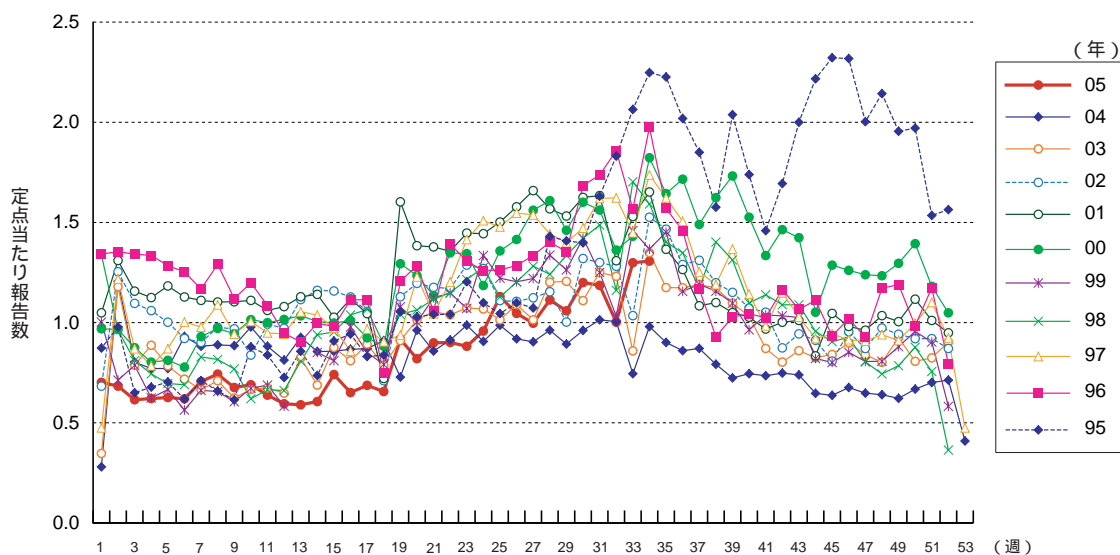


図1. 流行性角結膜炎の年別・週別発生状況( 1995-2005年34週 )

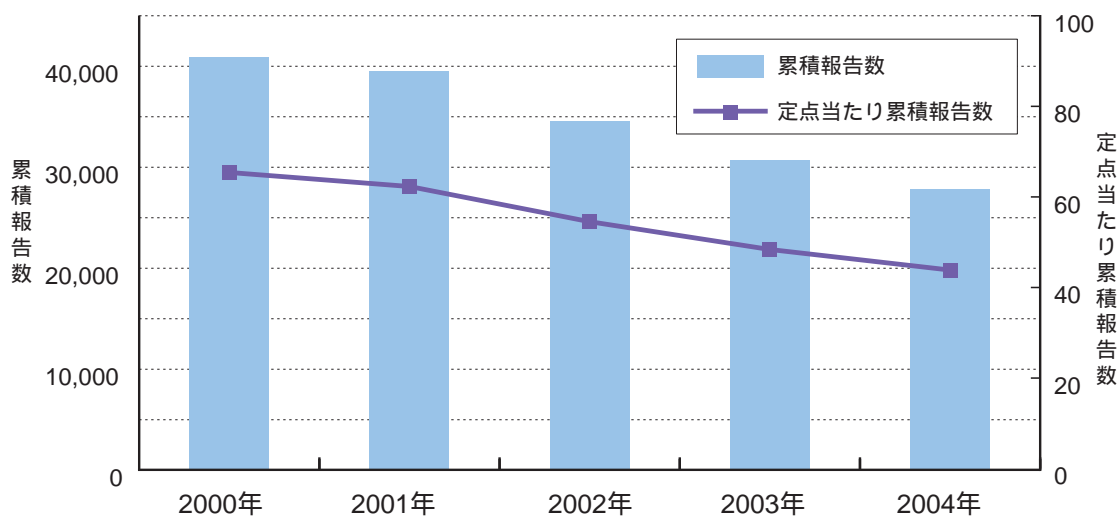


図2 . 流行性角結膜炎の年別発生状況( 2000 ~ 2004年 )

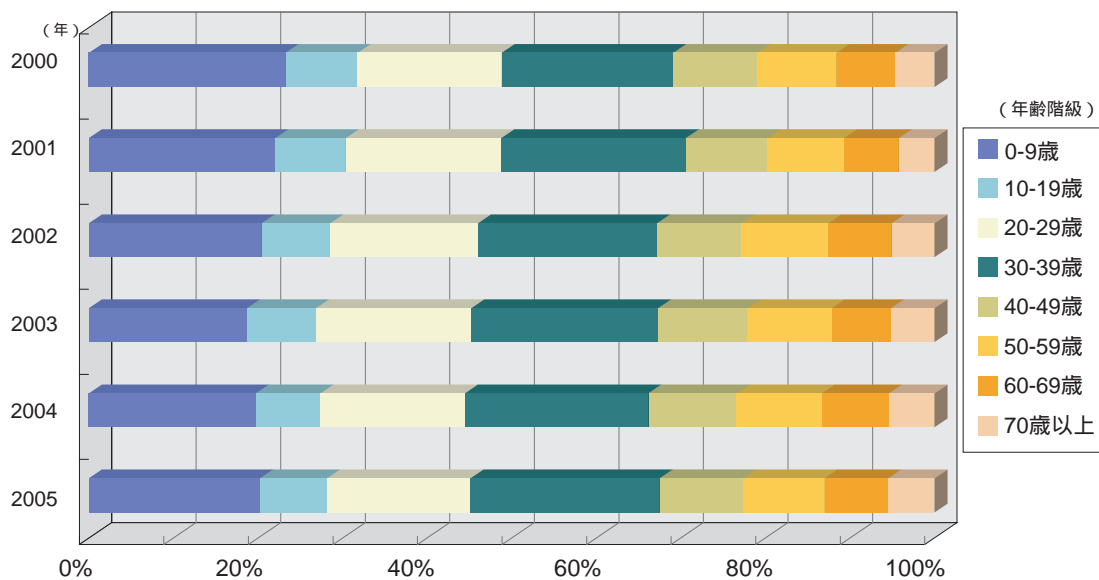


図3 . 流行性角結膜炎報告症例の年齢別割合( 2000 ~ 2005年第34週 )

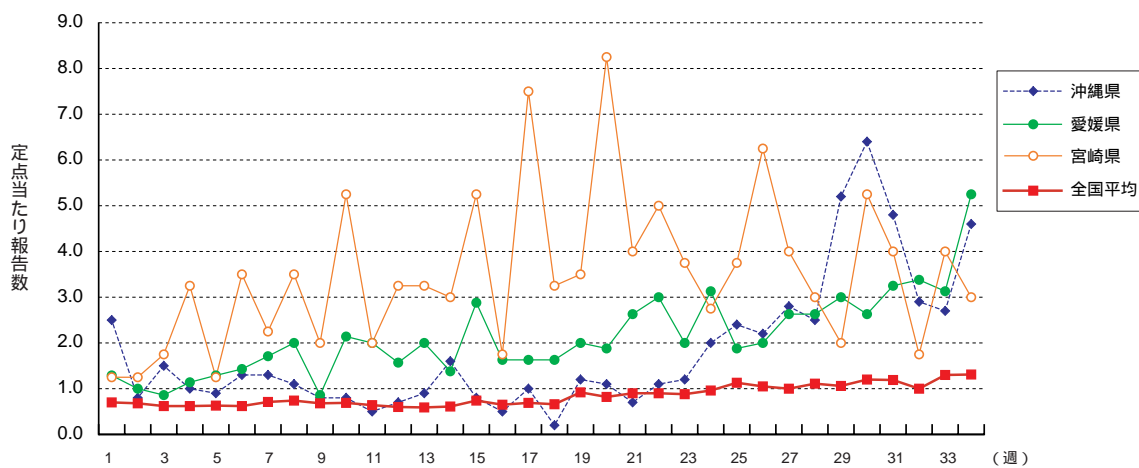


図4. 主要3県における流行性角結膜炎の週別発生状況( 2005年1 ~ 34週 )

## 腸管出血性大腸菌感染症

2005年の腸管出血性大腸菌感染症の報告数は第20週に50例を超えた後、増加傾向が認められ、第23週には100例、第28週には150例を超えた( 図1 )。その後は週ごとに増減はあるものの、第26週からは継続して100例を超えている。本年第34週までの累積報告数は2,190例( 2002年2,319例、2003年1,523例、2004年2,336例 )であり、現在までのところ、例年に比べて特に多いとは言えない。

都道府県別では、第34週に報告の多かったのは岩手県( 21例 )、愛知県( 18例 )、東京都( 17例 )、大阪府( 17例 )、岡山県( 10例 )であった( 図2 )。また、累積報告数では大阪府( 151例 )、東京都( 147例 )、愛知県( 125例 )、北海道( 120例 )、福岡県( 104例 )が多かった。

第34週に報告された177例のうち、性別では男性87例、女性90例であり、年齢階級別( 10歳毎 )では相変わらず0~9歳( 90例 )が最も多く、51%を占めた( 図3 )。また、有症状者は125例( 71% )で、無症状病原体保有者が52例であった。無症状病原体保有者は、食品産業従事者の定期検便によって発見される場合もあるが、多くは探知された患者と食事を共にした者や、接触者の調査などによって発見される場合が多い。また、溶血性尿毒症症候群( HUS )2例の報告が追加され、累積では24例となった。死亡例の報告はなく、累積では3例である。HUSなどの合併症や死亡については、届け出時点以降での発生が十分反映されていない可能性があり、発生があった場合の追加・修正報告をお願いしている。

血清型・毒素型別では、第34週はO157 VT1・VT2( 55例 )、O26 VT1( 47例 )、O157 VT2( 44例 )の順に多く、累積報告数では、O157 VT1・VT2( 821例 )、O157 VT2( 488例 )、O26 VT1( 415例 )の順に多い。

例年集団発生が多く認められる保育施設も含め、本年も各種施設における集団発生や死亡の報告がなされており、十分な警戒が必要である。食品の取り扱いには十分注意して食中毒の予防を徹底するとともに、手洗いの励行などにより、ヒトからヒトへの二次感染を予防することが大切である。保育所においては、特にオムツ交換時の手洗い、園児に対する食前・食後の手洗い指導の徹底、簡易プールなどの衛生管理にも注意を払う必要がある。

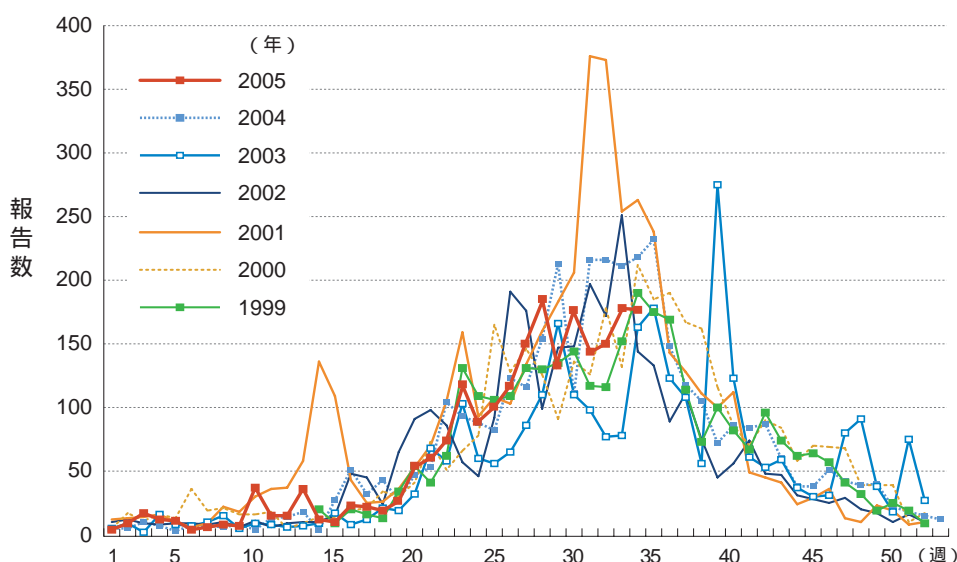


図1. 腸管出血性大腸菌感染症( 無症状病原体保有者含む )の年別・週別発生状況



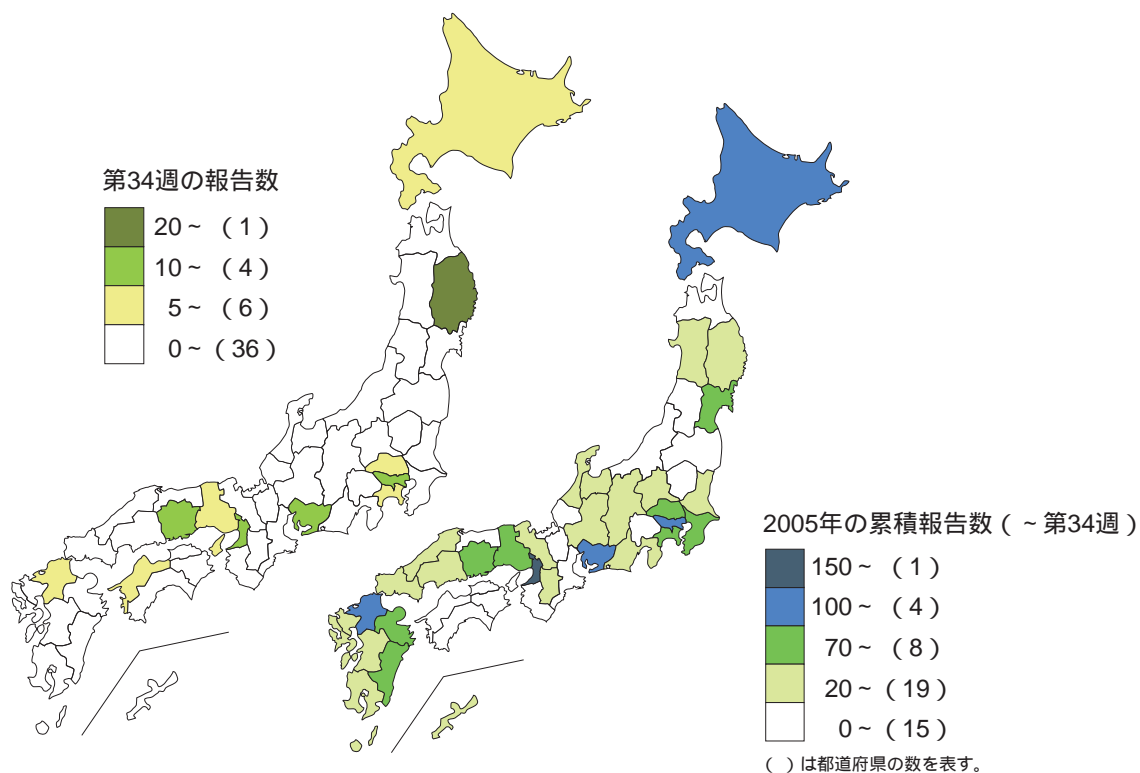


図2. 腸管出血性大腸菌感染症( 無症状病原体保有者含む )の都道府県別発生状況

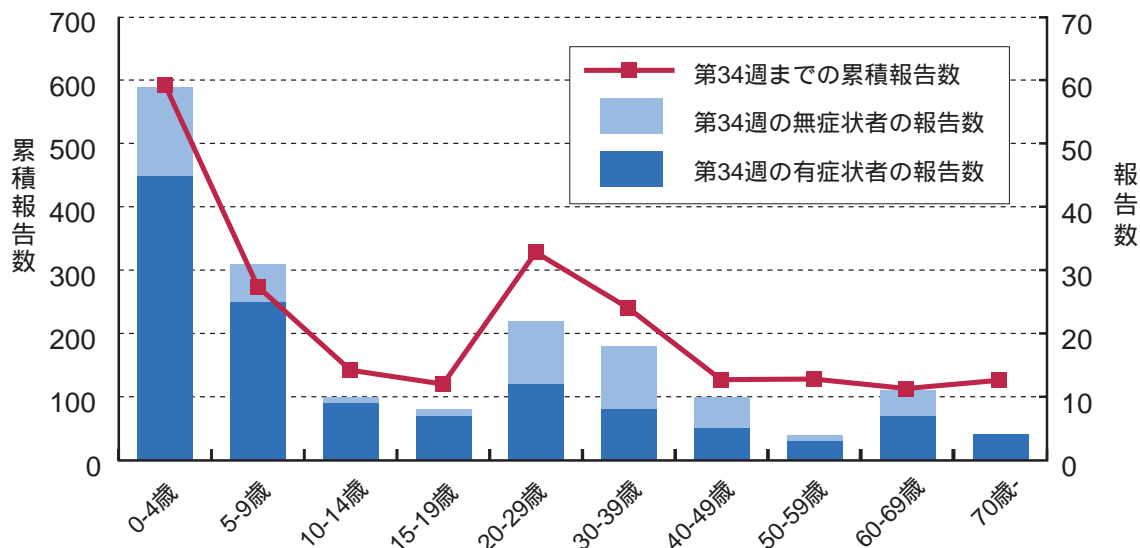


図3. 腸管出血性大腸菌感染症の年齢別分布( 症状の有無を含む )



## 病原体情報

\* グラフはIASRホームページ( <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> )からの引用です。

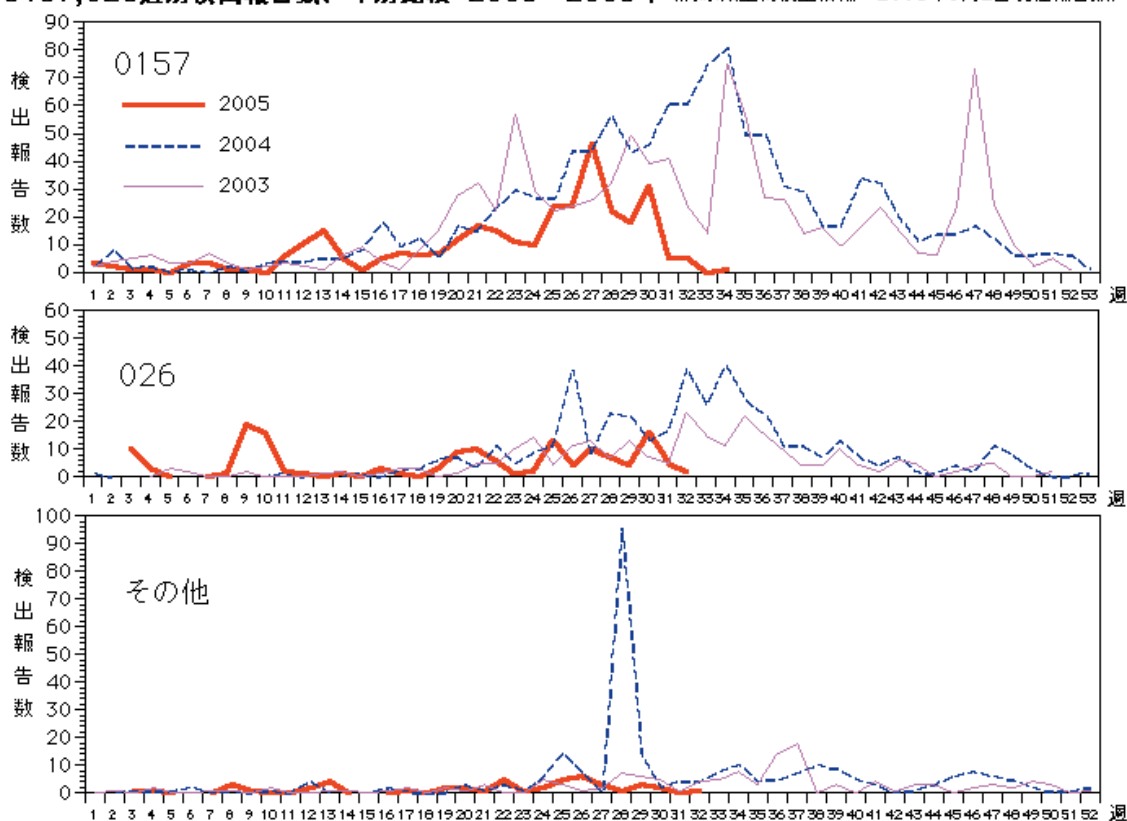
各都道府県市の地方衛生研究所( 地研 )からの検出報告です。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

( 2005年9月2日現在報告分 )

### ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2005年

2005年の検出総数は521件で、O157が325件、O26が149件、その他の血清型が47件報告されている。第31週に岩手県からO26の集団発生( キャンプ場 )が報告されている。

**O157,O26週別検出報告数、年別比較 2003~2005年** (病原微生物検出情報：2005年9月2日現在報告数)



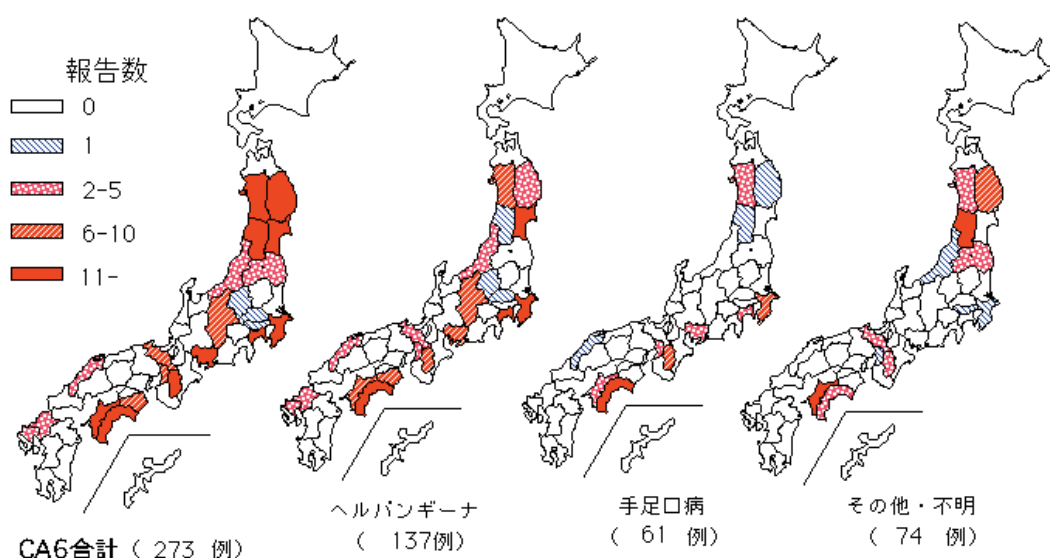
各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を週に示した。



### A群コクサッキーウイルス6型 2005年

2005年第12週以降、A群コクサッキーウイルス6型( CA6 )の検出が増加しており、第33週までに22都府県から273件が報告されている。このうち、137件はヘルパンギーナ患者、61件は手足口病患者から検出されているが、その他に上気道炎や発熱の症状を呈した患者などからも74件が検出されている。CA6は2004年の夏季には報告が少なかったが、冬季には検出が報告されていた。

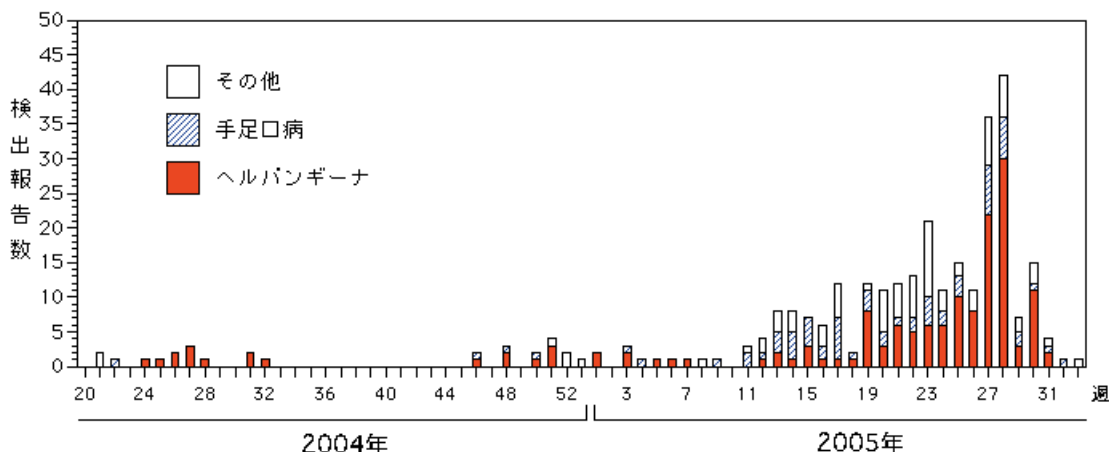
都道府県別診断名別CA6分離報告状況, 2005年 (病原微生物検出情報: 2005年9月2日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



### 週別A群コクサッキーウイルス6型検出報告数、2004~2005年

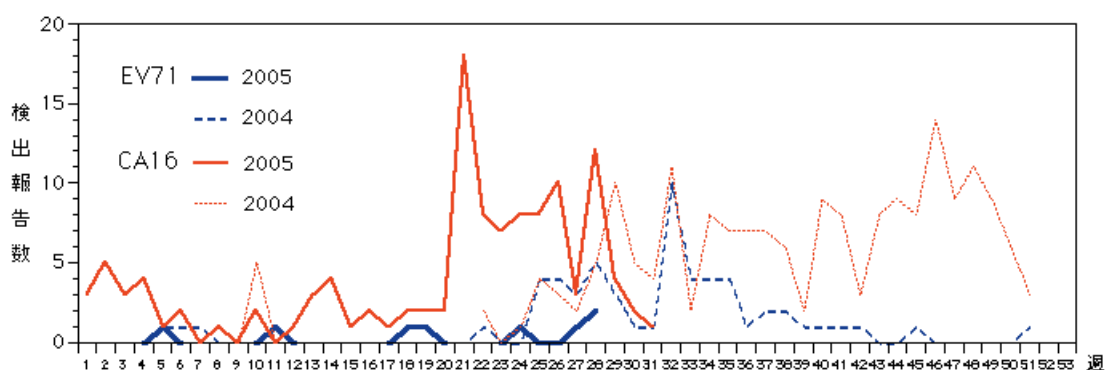


(病原微生物検出情報: 2005年9月2日現在報告数)

### エンテロウイルス71型 & A群コクサッキーウイルス16型 2005年

A群コクサッキーウイルス16型( CA16 )が第21週から増加し、第31週までに18府県から120件が報告されている。このうち113件は手足口病患者、2件はヘルパンギーナ患者から検出されている。一方、エンテロウイルス71型( EV71 )は第5週( 北海道 ) 第11週( 高知県 ) 第18週( 神奈川県 ) 第19週( 東京都 ) 第24週( 神奈川県 ) 第27週( 神奈川県 )に各1件、第28週に2件( 神奈川県、千葉県 ) 計8件が報告されている。このうち、6件は手足口病患者、1件は髄膜炎患者、1件はヘルパンギーナ患者から検出されている。

週別EV71&CA16分離報告数、年別比較、2004&2005年 (病原微生物検出情報：2005年9月2日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を圖に示した。





## 日本のAIDS患者・HIV感染者の状況

厚生労働省健康局疾病対策課  
平成17年8月12日

### エイズ動向委員会委員長コメント(要旨)

1. 今回の報告期間は2005(平成17)年4月4日～2005(平成17)年7月3日までの約3カ月である。法定報告に基づく新規HIV感染者報告数は171件(うち男性160件、女性11件。前回報告207件)で、前年同時期の新規HIV感染者報告数は199件である。  
一方、新規AIDS患者報告数は89件(うち男性83件、女性6件。前回報告79件)で、前年同時期の新規AIDS患者報告数は78件である。
2. 感染経路別に見ると、新規HIV感染者では同性間性的接触によるものが113件(全HIV感染者報告数の約66%)と最も多く、そのうち107件が日本国籍男性であった。また、異性間性的接触による新規感染者報告数は35件(全HIV感染者報告数の約20%、うち男性27件、女性8件)である。  
一方、新規AIDS患者では同性間性的接触によるものが32件(全AIDS患者報告数の約36%)、異性間性的接触によるものが33件(全AIDS患者報告数の約37%、うち男性30件、女性3件)となっている。  
年齢別では、新規HIV感染者は20～30代が大多数(約72%)を占め、新規AIDS患者は30～50代と広く分布している。  
要約すると、感染者・患者とも90%以上を男性が占め、その中でも同性間性的接触による感染が大多数を占めるという状態である。
3. 2005(平成17)年1月～6月末までの保健所におけるHIV抗体検査件数は37,214件(前年同時期30,007件)、相談件数が63,221件(前年同時期65,439件)であった。
4. 2005(平成17)年1月～6月の献血件数(速報値)は2,725,863件(前年同時期2,740,576件)で、そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数は36件、10万人当たりの陽性件数は1.321件(前年同時期1.642件)であった。
5. 今回の報告では新規HIV感染者報告数の減少が見られたものの、全体として引き続き増加傾向にあると言える。このため、国民は感染の機会が増えつつあることに留意して、HIV・AIDSについての理解を深め、積極的に予防やHIV抗体検査の早期受診に努めるべきである。都道府県等においても、普及啓発を推進するとともに、保健所を中心に、利用者の利便性(例えば時間帯・場所など)に配慮した検査・相談事業を一層推進して、HIV感染の早期発見による早期治療と感染拡大の抑制に努める必要がある。

## マラリア 1999年4月～2004年12月(2005年7月1日現在)

マラリアは、ハマダラカの刺咬により*Plasmodium*属のマラリア原虫が体内に侵入して起こる疾患であるが、ヒトに疾患を起すのは三日熱マラリア原虫(*P. vivax*)、四日熱マラリア原虫(*P. malariae*)、卵形マラリア原虫(*P. ovale*)、熱帯熱マラリア原虫(*P. falciparum*)の4種類である。なかでも、熱帯熱マラリアは短期間で重症化あるいは死亡にいたる危険がある(重症マラリア)。地域的には亜熱帯・熱帯地方に広く分布するが、特にサハラ以南アフリカでは問題が大きい。流行地住民のみならず、旅行者が流行地から帰国して発症する輸入マラリアも問題となっており、全世界で年間3万人程度あるとされる。

潜伏期間は熱帯熱マラリアでは1～3週間、他は10日～4週間のことが多いが、特に予防内服を行っている時などでは数カ月、あるいは1年以上になることもある。症状は、発熱、悪寒・戦慄、倦怠感、頭痛、筋肉痛、関節痛などが主であるが、ときに悪心・嘔吐、下痢、腹痛などの腹部症状や、乾性咳嗽などの呼吸器症状がみられることもある。また、重症マラリアでは脳症、急性腎不全その他、合併症による様々な症状や所見を示す。

診断には、ギムザ染色血液塗抹標本を光学顕微鏡で観察する顕微鏡法が基本である。しかし、熟練していない場合などには見逃しを生じやすく、原虫種鑑別も難しいことがあるので、補助的診断法として抗原検出法(国内未発売)やPCR法の併用も勧められる。

治療では、特に熱帯熱マラリアでの薬剤耐性を考慮する必要がある。また、「熱帯病・寄生虫症に対する稀少疾病治療薬の輸入・保管・治療体制の開発研究」班(<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/didai/orphan/index.html>)が、わが国で認可されていない抗マラリア薬を保管している。さらに同研究班では、マラリアを含む輸入感染症に関する医療従事者からの相談を広く受けている。

マラリアの予防は防蚊対策、予防内服、スタンバイ治療に分けられる。防蚊対策は全ての場合の基本であり、予防内服、スタンバイ治療はリスクに応じて行なうものと位置づけられるが、これらは主に、独立した専門分野である「旅行医学」で扱われている。わが国でも最近、「日本の旅行者のためのマラリア予防ガイドライン」が発刊された。

以下に、1999年4月施行の感染症法の元でのマラリア報告症例の集計結果を示す。

### 1. 全マラリア

わが国におけるマラリア報告数は、感染症法施行以前の伝染病予防法下では年間50～80人で推移していた。しかし感染症法施行後、報告数は増加し、1999年(4月～)112例、2000年154例、2001年109例と年間100例を超えたが、その後、2002年83例、2003年78例、2004年75例と減少している(図1)。

1999年4月～2004年12月の期間に報告された611例についてみると、性別では男性460例、女性151例で、年齢別では0～9歳9例(1%)、10～19歳24例(4%)、20～29歳245例(40%)、30～39歳182例(30%)、40～49歳74例(12%)、50～59歳46例(8%)、60～69歳25例(4%)、70～79歳6例(1%)であった。原虫種別では三日熱257例(42%)、四日熱8例(1%)、卵形29例(5%)、熱帯熱261例(43%)、不明56例(9%)であった。死亡の報告は8例あり、熱帯熱マラリアが4例で、他の4例は原虫種不明であったが、届け出以降に死亡した症例が把握されていない可能性もある。

これらの611例を推定感染地域別にみると、アフリカ(263例)、アジア(229例)、大洋州(76例)、南米(16例)、中米(1例)、中東(1例)、2地域以上の記載のあるもの・記載なし・不明(25例)であった。アフリカの中では国名などの詳細が不明な24例を除き、すべてがサハラ以南の地域であり、西アフリカと東アフリカの両地域の合計が80%以上を占めた。アフリカに次いで多かったのはアジアで、東南アジアと南アジアの両地域の合計が95%以上を占めた。

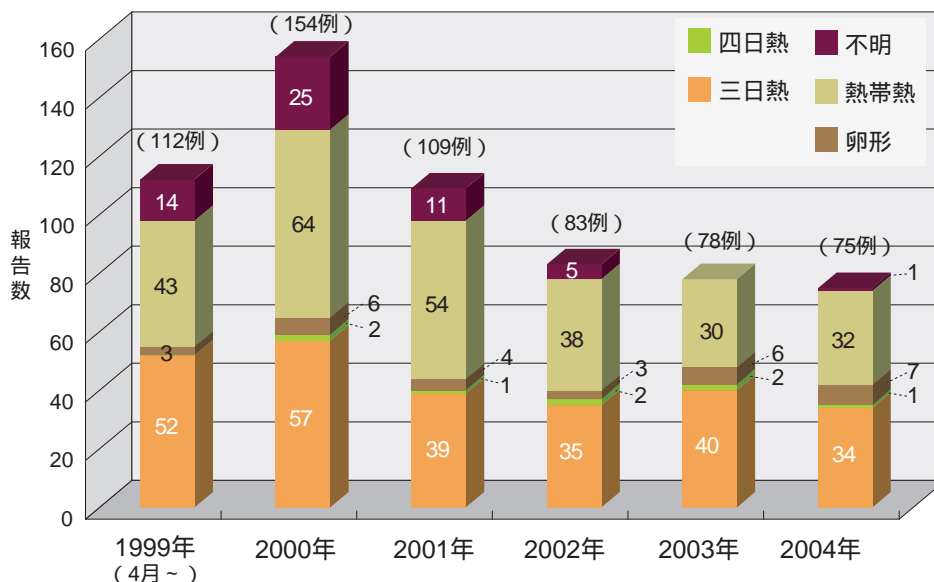


図1. マラリアの年別・原虫種別発生状況

## 2. マラリア原虫種別

### a. 三日熱マラリア

報告数は257例であったが、性別では男性194例、女性63例で、年齢別では10～19歳12例(5%)、20～29歳131例(51%)、30～39歳65例(25%)、40～49歳28例(11%)、50～59歳14例(5%)、60～69歳5例(2%)、70～79歳2例(1%)であった(図2)。推定感染地域別では特にアジア(157例:61%)が多く、次いで大洋州(48例:19%)、アフリカ(23例:9%)、南米(15例:6%)の順であり、中米(1例)、中東(1例)の報告もあった(表1、表2)。アジアの中では東南アジア(96例:61%)、南アジア(55例:35%)が多く、国別にみると特にインドネシア(63例)、インド(42例)の2カ国が多かった。

### b. 四日熱マラリア

報告数は8例であったが、性別ではすべて男性で、年齢別では20～29歳3例、30～39歳3例、40～49歳2例であった(図2)。推定感染地域別ではアフリカ5例、アジア2例、大洋州1例であった(表1、表2)。

### c. 卵形マラリア

報告数は29例であったが、性別では男性22例、女性7例で、年齢別では0～9歳3例(10%)、10～19歳2例(7%)、20～29歳13例(45%)、30～39歳7例(24%)、40～49歳2例(7%)、50～59歳2例(7%)であった(図2)。推定感染地域別ではアフリカ(24例)が大半を占め、アジア(3例)、大洋州(2例)の報告もあった(表1、表2)。

d. 熱帯熱マラリア

報告数は261例であったが、性別では男性194例、女性67例で、年齢別では0～9歳4例(2%)、10～19歳8例(3%)、20～29歳75例(29%)、30～39歳90例(34%)、40～49歳38例(15%)、50～59歳25例(10%)、60～69歳18例(7%)、70～79歳3例(1%)であった(図2)。推定感染地域別では特にアフリカ(186例:71%)が多く、次いでアジア(45例:17%)、大洋州(21例:8%)であり、南米(1例)の報告もあった(表1、表2)。アフリカの中では、西アフリカ(109例)と東アフリカ(45例)の合計が80%以上を占めており、国別にみるとガーナ(31例)、ナイジェリア(29例)、マリ(14例)、タンザニア(12例)、ケニア(10例)が多かった。

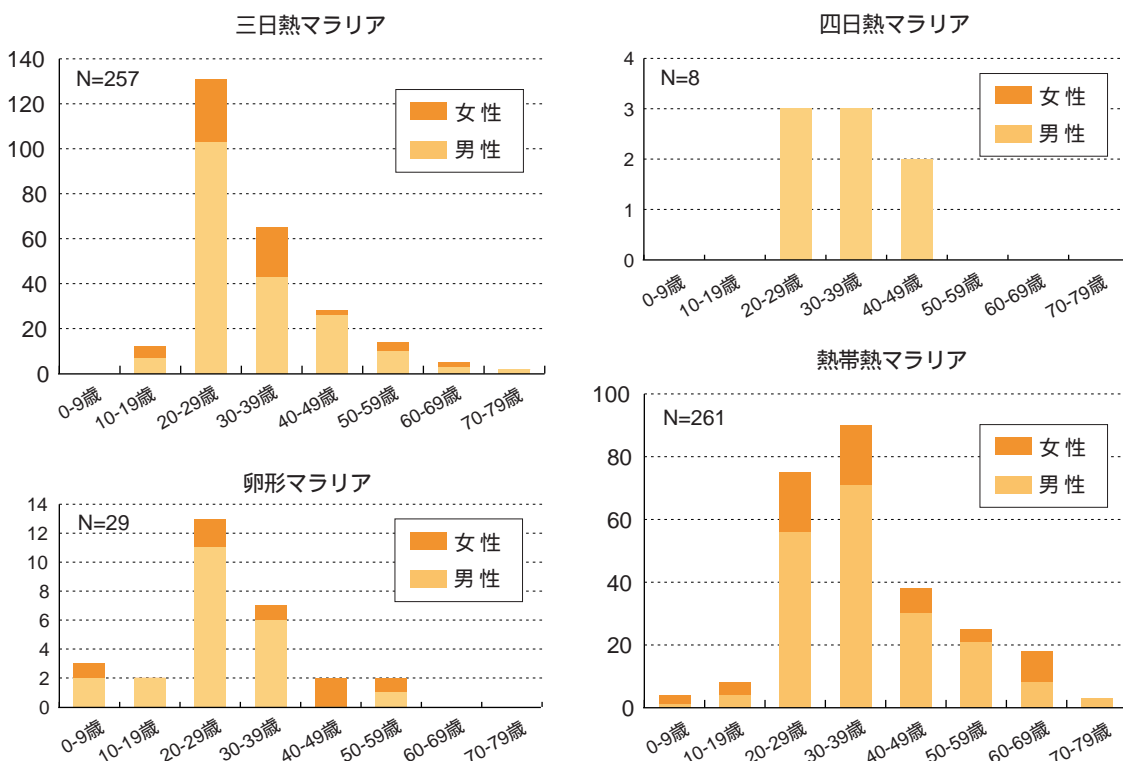


図2. マラリアの性別・年齢群別報告数( 1999年4月 ~ 2004年 )



表1. マラリア報告症例の推定感染地域( 1999年4月 ~ 2004年 )

地 域		三日熱	四日熱	卵形	熱帯熱	合計	
アフリカ	北アフリカ	0	0	0	0	0	
	サハラ以南アフリカ	西アフリカ	9	2	14	109	134
		東アフリカ	9	3	5	45	62
		中央アフリカ	1	0	2	6	9
		南アフリカ	0	0	1	7	8
		西/東アフリカ	0	0	0	1	1
	小 計	19	5	22	168	214	
詳細不明アフリカ	4	0	2	18	24		
小 計	23	5	24	186	238		
アジア	南アジア	55	1	1	7	64	
	東南アジア	96	1	2	35	134	
	東アジア	2	0	0	1	3	
	上記2地域以上	2	0	0	1	3	
	詳細不明アジア	2	0	0	1	3	
小 計	157	2	3	45	207		
大 洋 州		48	1	2	21	72	
中 米		1	0	0	0	1	
南 米		15	0	0	1	16	
中 東		1	0	0	0	1	
その他	アジア/アフリカ	1	0	0	3	4	
	アジア/ヨーロッパ	1	0	0	0	1	
	アジア/中東	1	0	0	0	1	
	アジア/中東/アフリカ	1	0	0	0	1	
	中米/南米	1	0	0	0	1	
	その他(記載なし)	0	0	0	4	4	
不 明		7	0	0	1	8	
合 計		257	8	29	261	555	

原虫種の判明した555例について表示した。  
 なお、2カ国以上の記載があっても、同一地域であればその地域に計上した。

表2. マラリア報告症例の推定感染国(1999年4月 ~ 2004年 ) N=555

三日熱マラリア(257例)	アジア	東南アジア	96	インドネシア(63)、タイ(11)、ミャンマー(8)、フィリピン(5)、東チモール(4)、ラオス(1)、ベトナム(1)、カンボジア(1)、タイ/インドネシア(1)、不明(1)
		南アジア	55	インド(42)、パキスタン(7)、スリランカ(2)、ネパール(2)、バングラデシュ(1)、インド/ネパール(1)
		東アジア	2	中国(1)、韓国(1)
		東南/南アジア	2	タイ/インド/ネパール(1)、タイ/インド(1)
		詳細不明	2	
	大洋州		48	バブアニューギニア(42)、ソロモン諸島(5)、パヌアツ(1)
	アフリカ	西アフリカ	9	ニジェール(4)、ガーナ(2)、マリ(2)、ナイジェリア(1)、
		東アフリカ	9	エチオピア(4)、マラウイ(2)、ウガンダ(1)、ケニア(1)、マダガスカル(1)
		中央アフリカ	1	ザンビア(1)
		詳細不明	4	
	南米		15	ブラジル(13)、ブラジル/ペルー/アルゼンチン(1)、不明(1)
	中米		1	キューバ(1)
	中東		1	アフガニスタン(1)
2地域以上・記載なし・不明		12		
四日熱マラリア(8例)	アフリカ	東アフリカ	3	タンザニア(2)、ウガンダ(1)
		西アフリカ	2	ガーナ(1)、カメルーン(1)
	アジア	東南アジア	1	ミャンマー(1)
		南アジア	1	インド(1)
	大洋州		1	バブアニューギニア(1)
卵形マラリア(29例)	アフリカ	西アフリカ	14	ナイジェリア(4)、セネガル(3)、ブルキナファソ(2)、カメルーン(2)、ギニア(2)、ニジェール(1)
		東アフリカ	5	タンザニア(2)、ケニア(1)、ウガンダ(1)、マラウイ(1)
		中央アフリカ	2	コンゴ(1)、ガボン(1)
		南アフリカ	1	南アフリカ共和国(1)
		詳細不明	2	
	アジア	東南アジア	2	インドネシア(2)
		南アジア	1	インド(1)
大洋州		2	バブアニューギニア(2)	
熱帯熱マラリア(261例)	アフリカ	西アフリカ	109	ガーナ(31)、ナイジェリア(29)、マリ(14)、コートジボワール(10)、ブルキナファソ(7)、セネガル(5)、ギニア(4)、シエラレオネ(2)、ニジェール(2)、カメルーン(1)、ベナン(1)、ガーナ/ギニア(1)、ガーナ/ベナン(1)、セネガル/ブルキナファソ/マリ(1)
		東アフリカ	45	タンザニア(12)、ケニア(10)、ウガンダ(7)、マダガスカル(6)、マラウイ(4)、モザンビーク(2)、エチオピア(2)、ケニア/ウガンダ(1)、不明(1)
		南アフリカ	7	南アフリカ共和国(3)、ジンバブエ(3)、ナミビア(1)
		中央アフリカ	6	ザンビア(2)、ガボン(1)、コンゴ(1)、チャド(1)、中央アフリカ(1)
		西/東アフリカ	1	コートジボワール/ケニア(1)
		詳細不明	18	
		アジア	東南アジア	35
	南アジア		7	インド(6)、スリランカ(1)
	東アジア		1	中国(1)
	東南/東アジア		1	ベトナム/中国(1)
	詳細不明		1	
	大洋州		21	バブアニューギニア(16)、ソロモン(5)
	南米		1	ブラジル(1)
2地域以上・記載なし・不明		8		



## 海外感染症情報

\* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ( <http://www.forth.go.jp/> ) をご覧下さい。

### ギニアでの黄熱流行

WHO/CSR 2005年8月31日

WHOに対して、ギニアのFouta Djallon地方で7名の黄熱患者と4名の黄熱死亡者が発生したとの報告がなされた。

Manou町では4名の患者が発生し、このうち3名が死亡した。この町は人口236,000人で、ConakryとKankanを結ぶ鉄道沿いに発達した町である。Mamou町はギニアでの輸送の積み替え地( Hub )の町である。これらの患者はWHOの黄熱協力検査機関により、検査で確認された。

Dalabaから、1名の死亡者を含む3名の患者が報告された。この町は人口136,000人で、Mamouから50kmに位置する。

### A型肝炎ワクチンを小児の定期予防接種に導入すべき時期か?

Eurosurveillance Weekly 2005年9月1日

A型肝炎の予防効果は証拠に基づき確立されている。当初のA型肝炎ワクチンの指針では、感染リスクが高い人にも接種するとあったが、別のアプローチとして小児のユニバーサルワクチン接種として行うことも勧められてきた。つい最近、米国とイスラエルからの2つの研究で、小児ユニバーサルワクチン接種により、A型肝炎発生率が低下したことを示す研究結果が報告された。

A型肝炎の疫学は、ほとんどのヨーロッパの国では変化しつつある。小児の感染は主に無症候性、あるいは認識されないが、コミュニティでのA型肝炎の重要な感染源になっている。生活環境の改善によって患者の発生率は低下しており、感染の平均年齢は上昇している。ほとんどの国で小児の感染が減少し、青年と成人でA型肝炎感染に感受性のある者が増えつつある。

5種類のA型肝炎ワクチンが流通しており、ほとんど全てのワクチンは1歳以上に認可されている。臨床試験の結果、安全性と有効性と高い免疫原性が示されており、接種2～4週間後には高い防御免疫が獲得される。基礎免疫の2回接種により、長期予防が可能になる。対照をおいたワクチン試験により示された予防効果は、85～100%であった。

1999年に米国予防接種実施諮問委員会により、A型肝炎ワクチン接種の指針が発表されたが、その実施後、米国A型肝炎サーベイランスのデータで、A型肝炎の発生率と疫学における根本的な変化が示された。

そこで推奨されたのは、1987～97年にA型肝炎発生率が人口10万人当たり20人以上の11州に居住する小児に対しては、ルーチンに接種を行い、発生率が10～20人の6州に居住する小児では接種を考慮する、と言うものであった。対象年齢は2～18才であり、主要対象者は学童前の子( 2～5才 )である。最も注目される結果は、2003年のA型肝炎の発生率である。

ワクチン接種開始前のベースライン期間( 1990～97年 )での全体の発生率( 人口10万人当たり10.7人 )と比較して、2003年には全体の発生率は2.6人と報告されたが、76%の減少であった。ワクチン接種を行った州での発生率は88%減少し( 人口10万人当たり21.1から2.5人 )、ワクチン接種を行わなかった州では53%減少した。発生率の減少は全年齢層で観察され、2～9才の年齢層で最も減少が見られた( ワクチン実施州で96%、非接種州で70% )。ワクチン接種計画実施前のA型肝炎発生率は、接種州では非接種州と比較してほぼ4倍高かったが、2003年には接種州での発生率は非接種州と大差なかった。

イスラエルの研究でも同様の低下が示された。( 中略 )

いずれの研究でも、小児に対するA型肝炎ワクチンユニバーサル接種の有効性と強い免疫獲得が示された。発生率の低下はワクチン接種を受けた小児だけでなく、受けていない年齢層を含む全年齢層でみられた。しかしながら、この計画の成功は高いワクチン接種率と、実際に使われたワクチンの有効性により達成されたものである。同時に環境と衛生面での改善もみられているので、A型肝炎発生率の低下はワクチン接種だけによるものではないことを意味する。

ヨーロッパの国々では、A型肝炎の流行度と患者発生率が国毎に異なるので、A型肝炎ワクチン接種実施の方針は国毎に異なると考えられる。すでにスペインなどのA型肝炎発生率が高い一部のヨーロッパの国では、A型肝炎ワクチン集団接種を開始し、発生率の速やかな低下が見られ、成功をおさめている。一方、英国などの多くの国では、ワクチン接種を行うほど発生率が高くない。



## 感染症の話

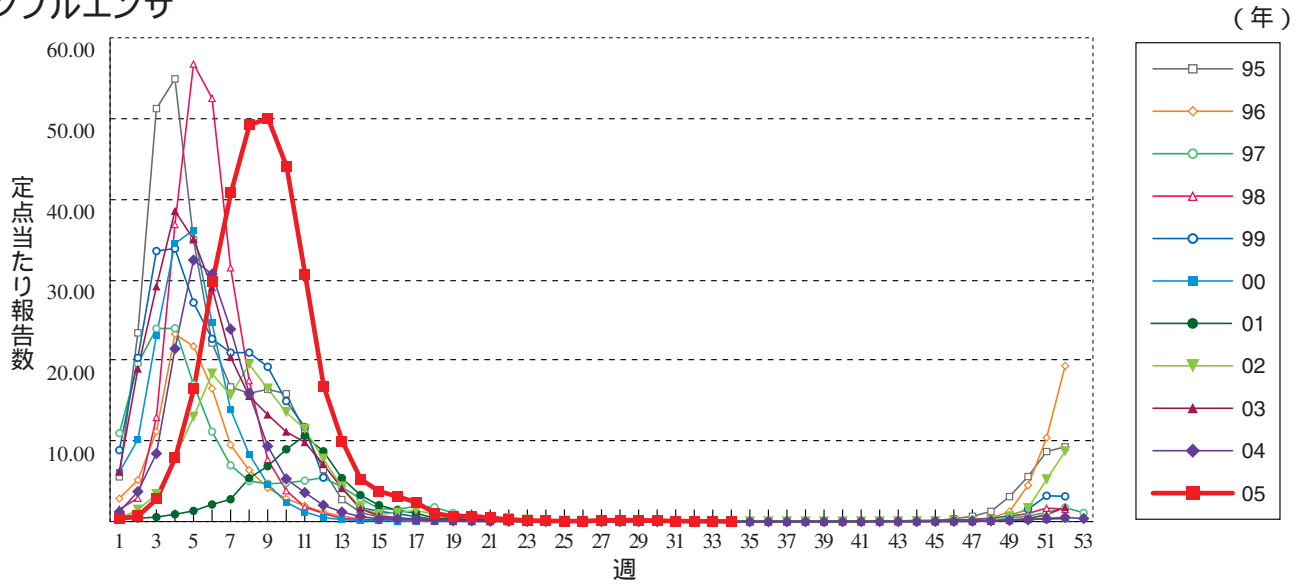
\*\*\*\*\*

今週はお休みさせていただきます。  
「感染症の話」過去の掲載分については  
<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/index.html>  
でご覧いただけます。

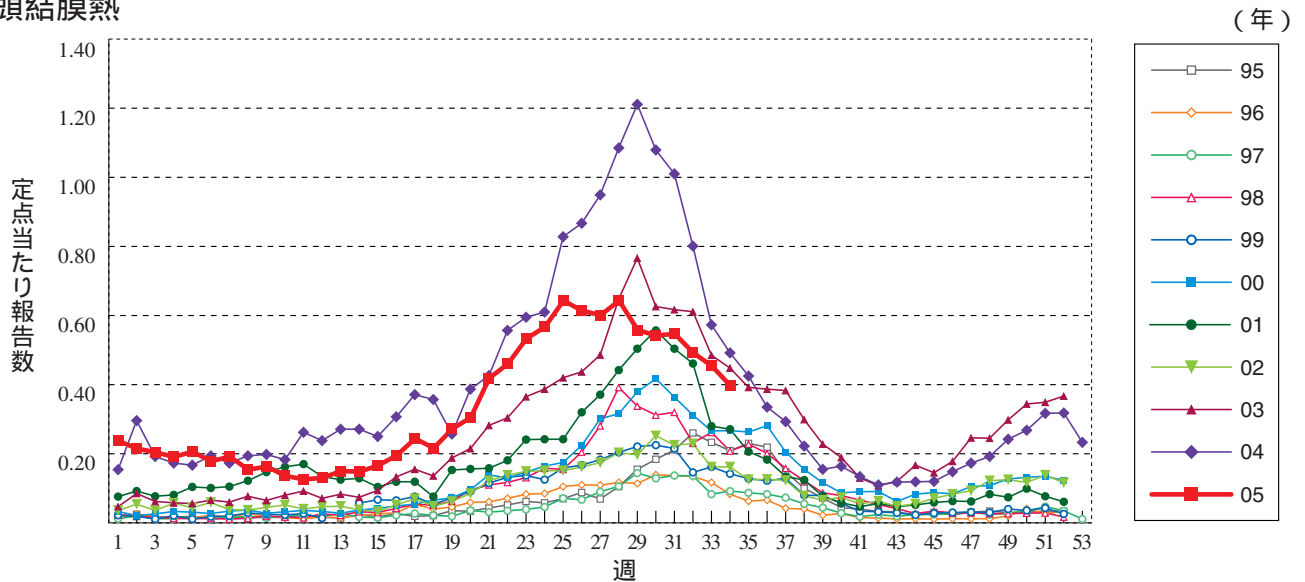
\*\*\*\*\*

**グラフ総覧( 3 4 週 )**

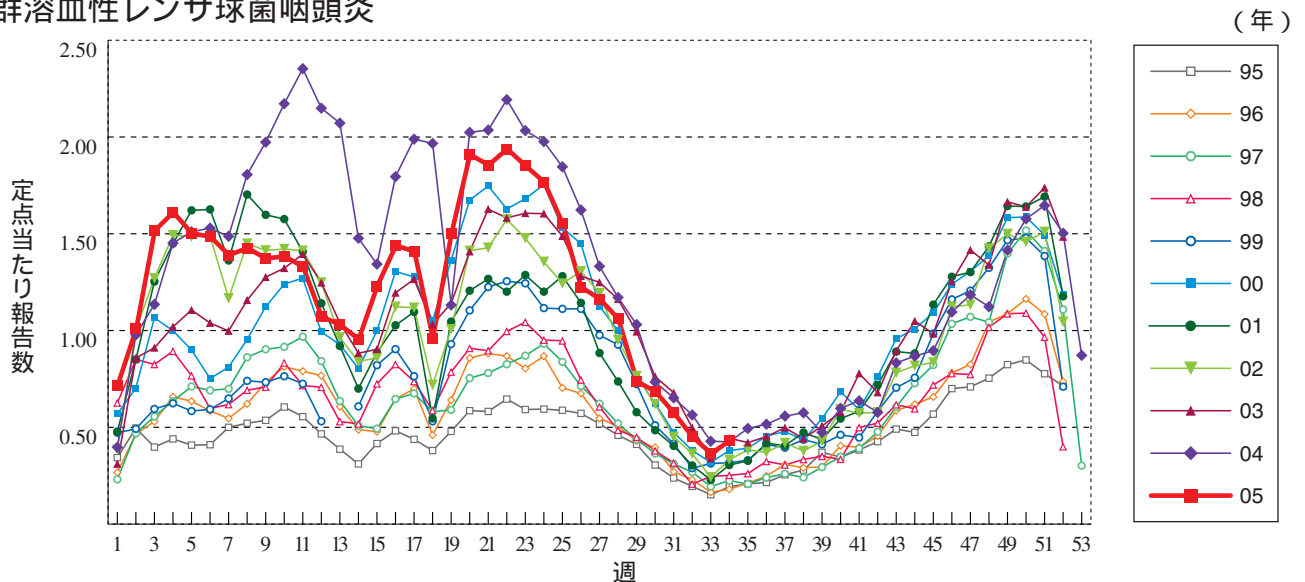
**インフルエンザ**



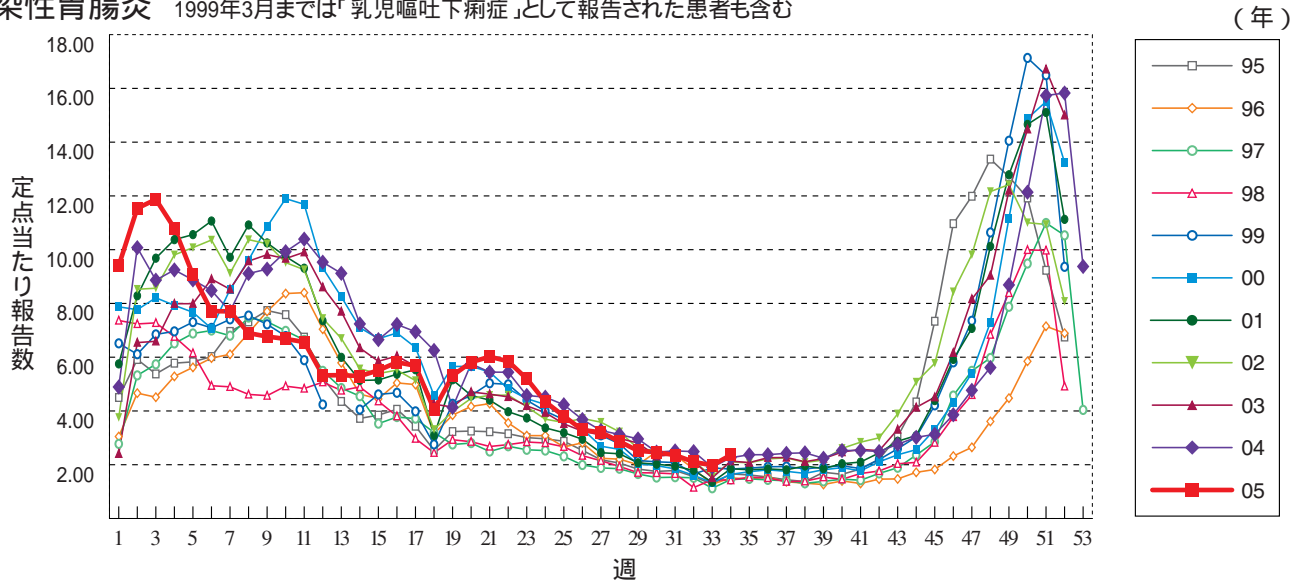
**咽頭結膜熱**



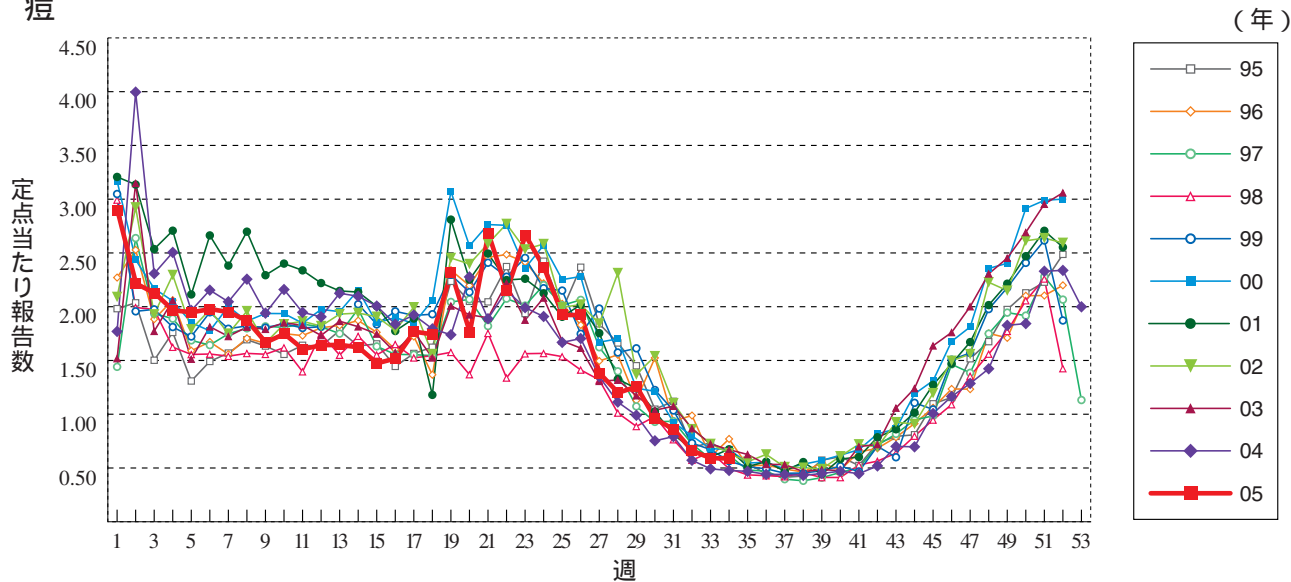
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**



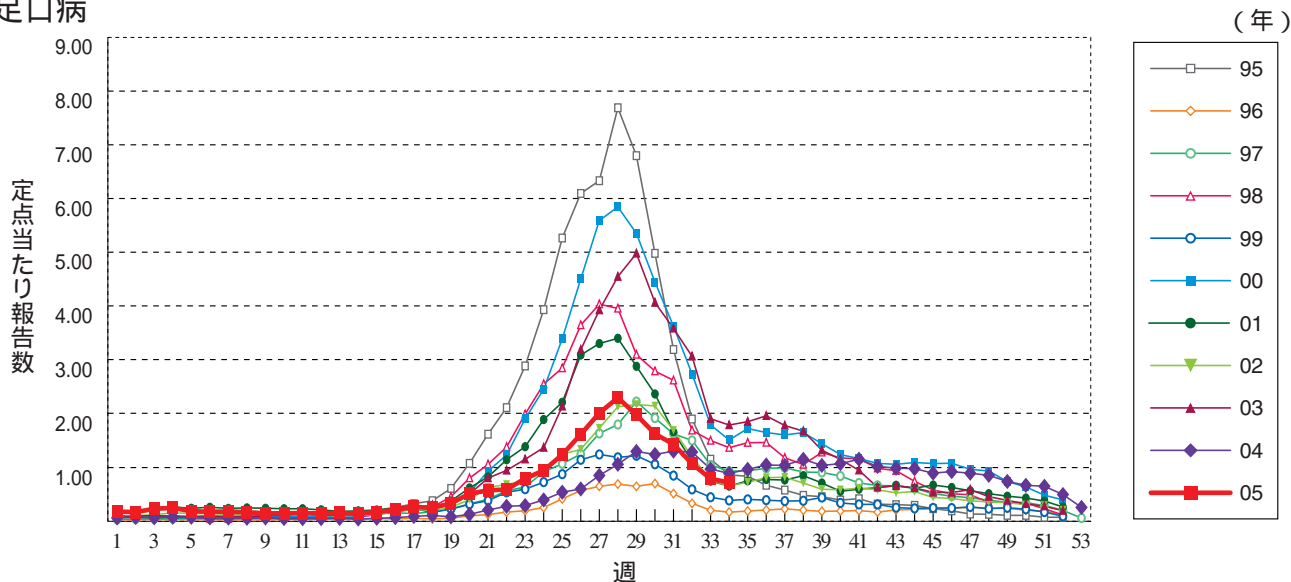
**感染性胃腸炎** 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



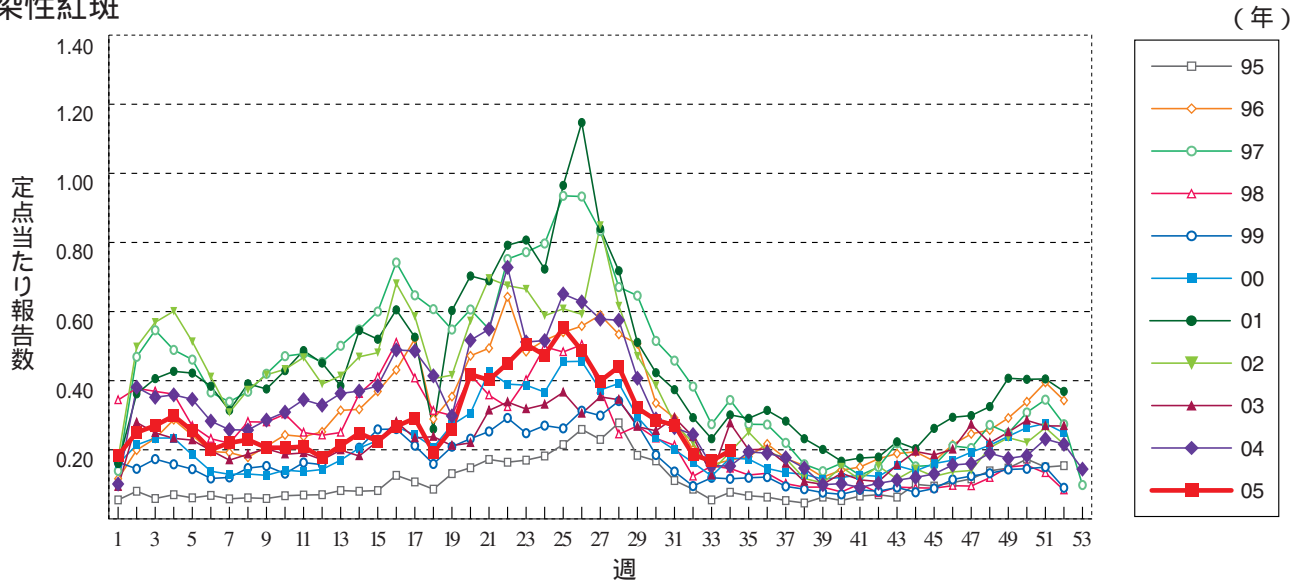
**水痘**



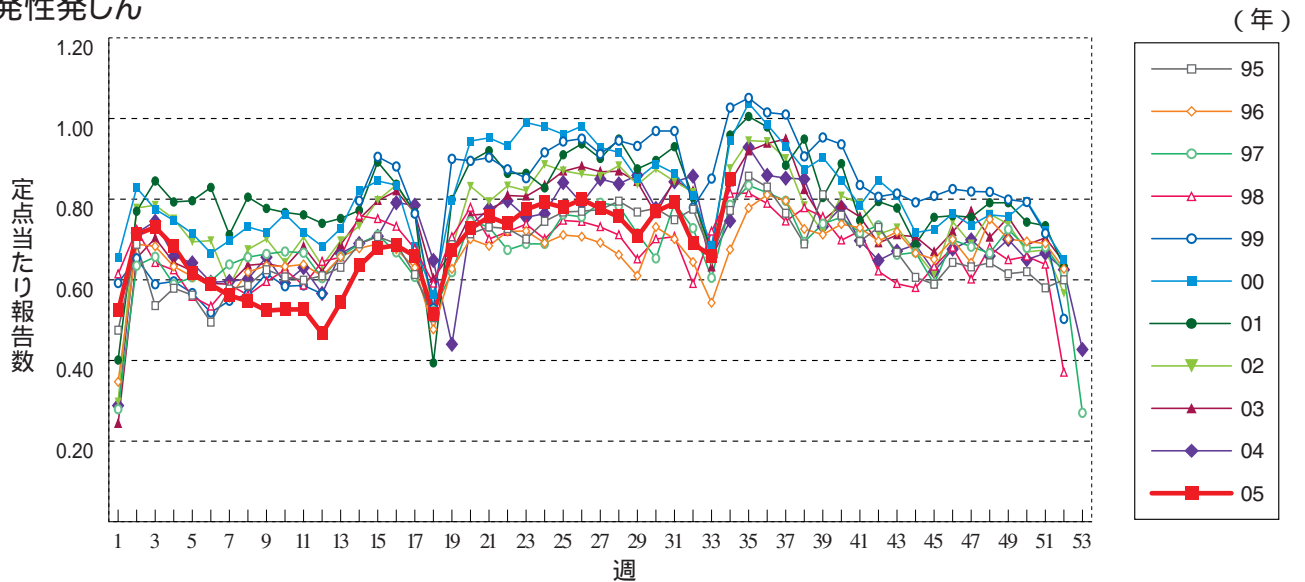
**手足口病**



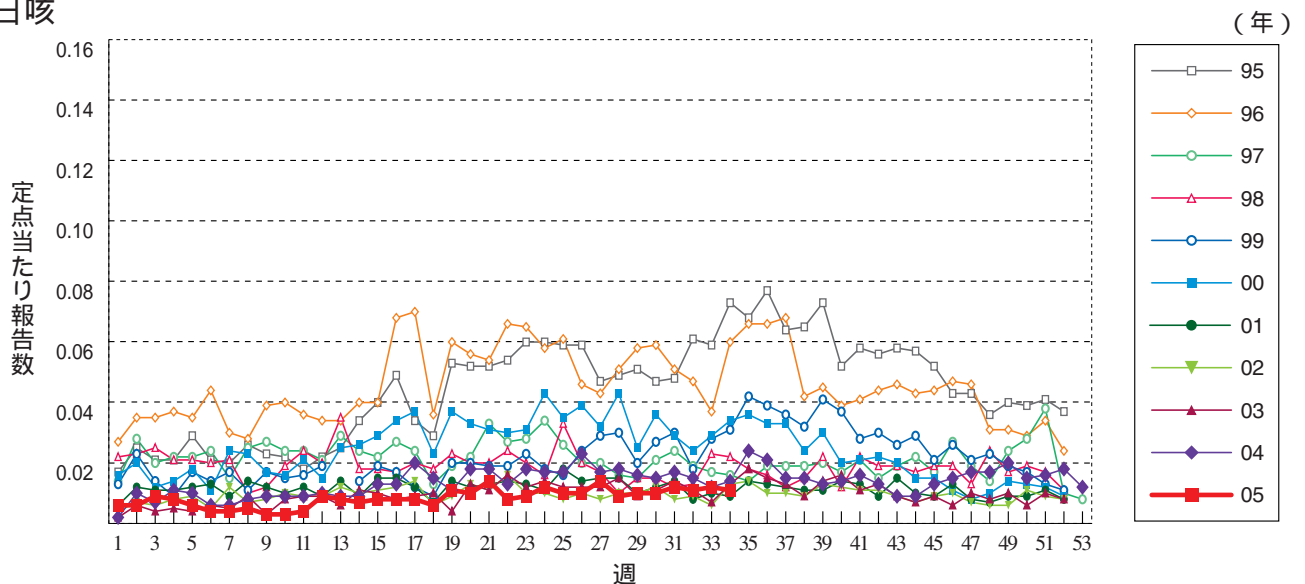
伝染性紅斑



突発性発しん

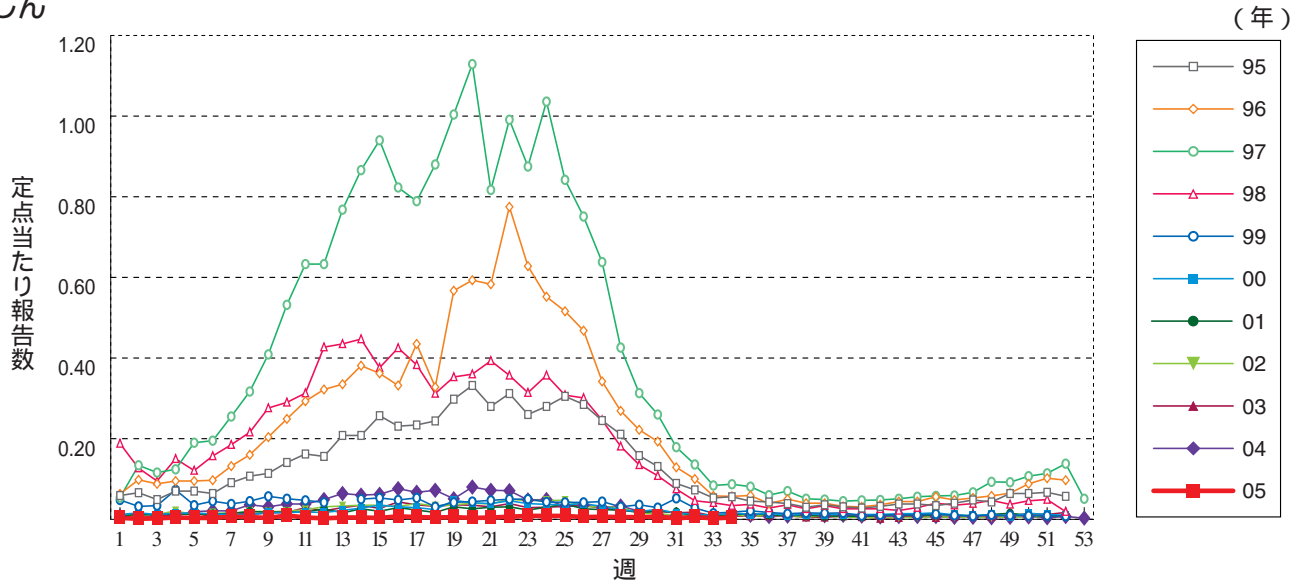


百日咳

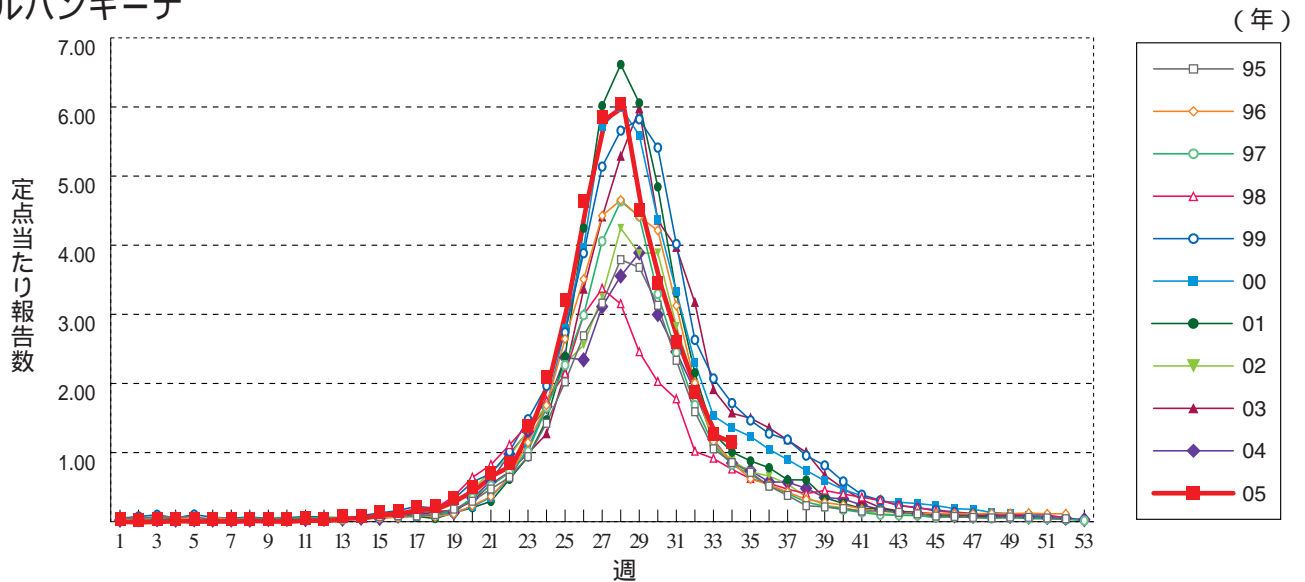




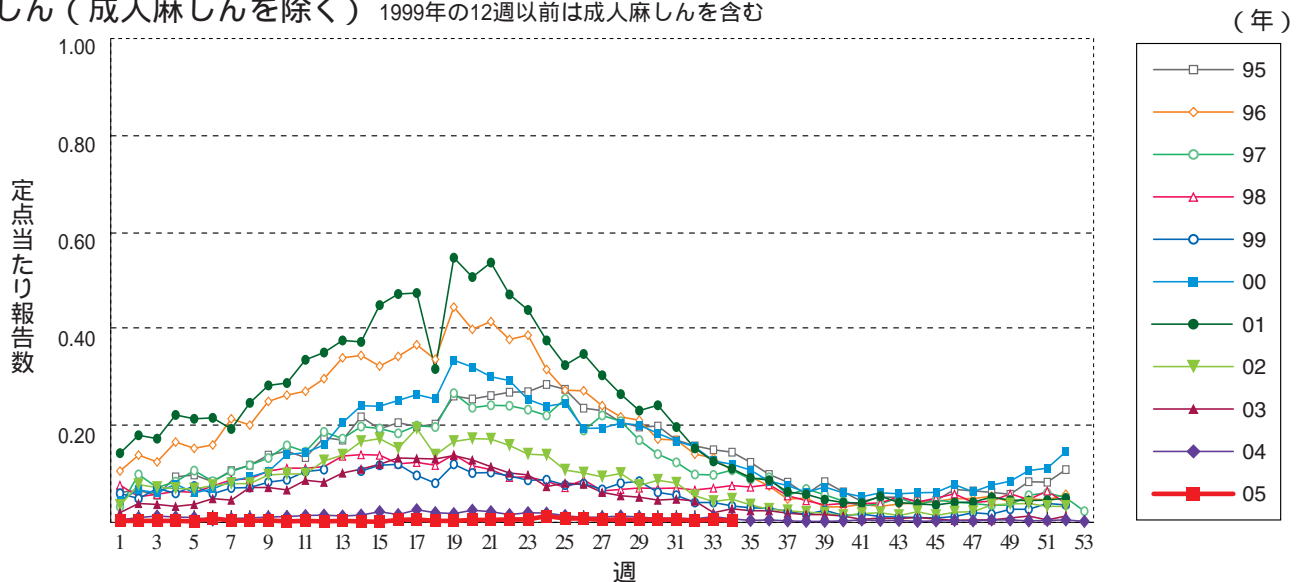
風しん



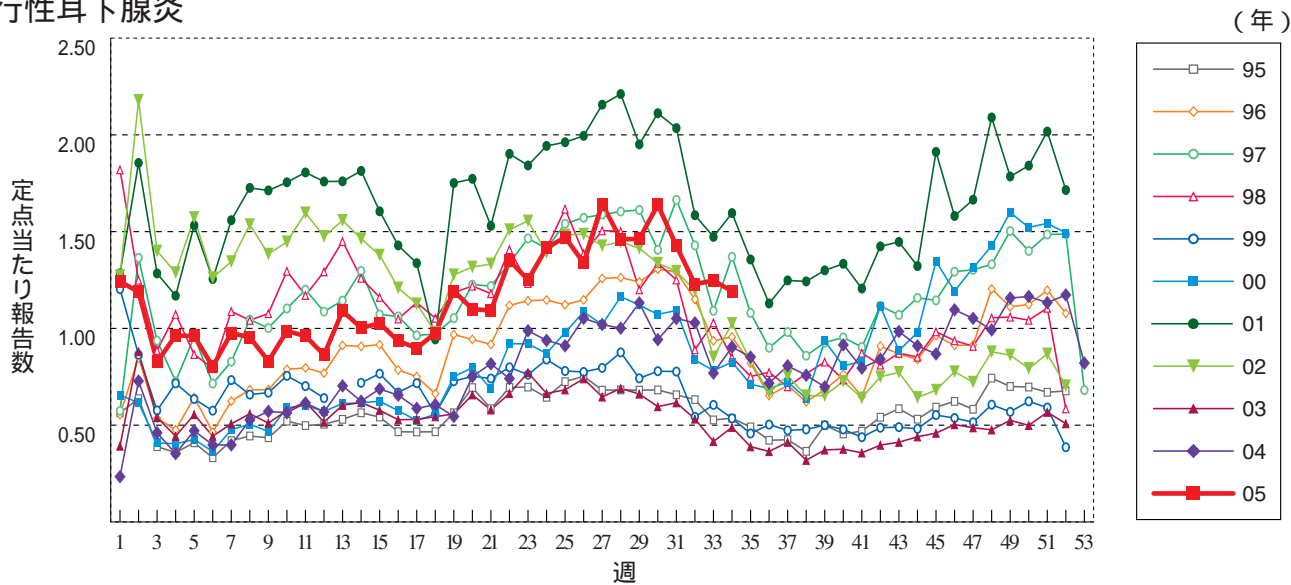
ヘルパンギーナ



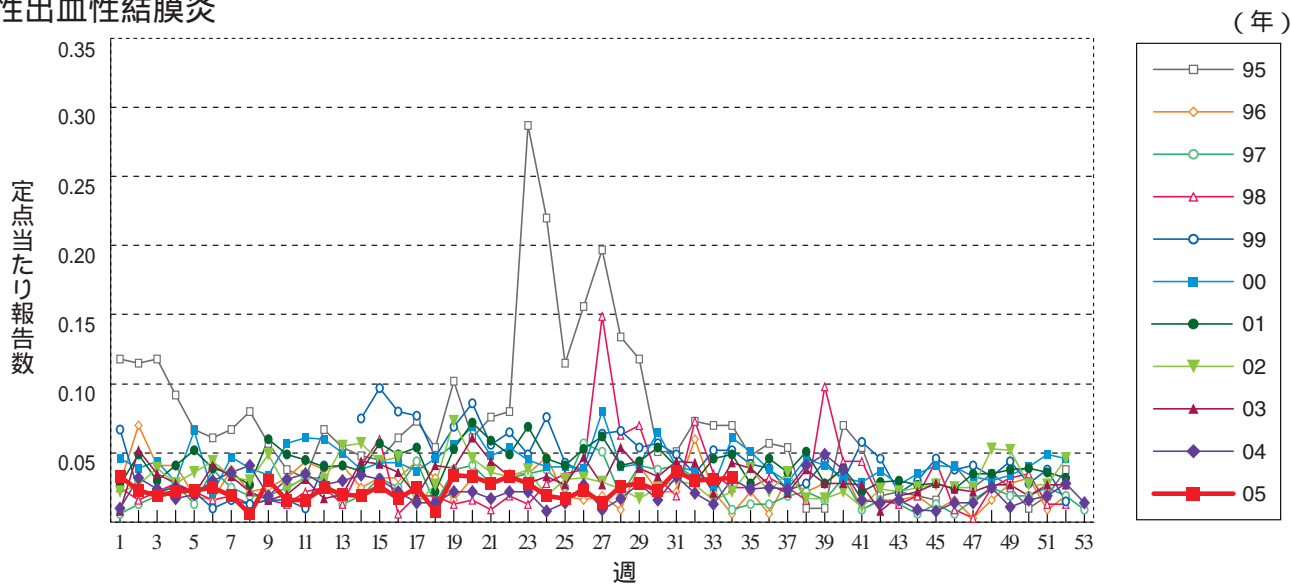
麻しん (成人麻しんを除く) 1999年の12週以前は成人麻しんを含む



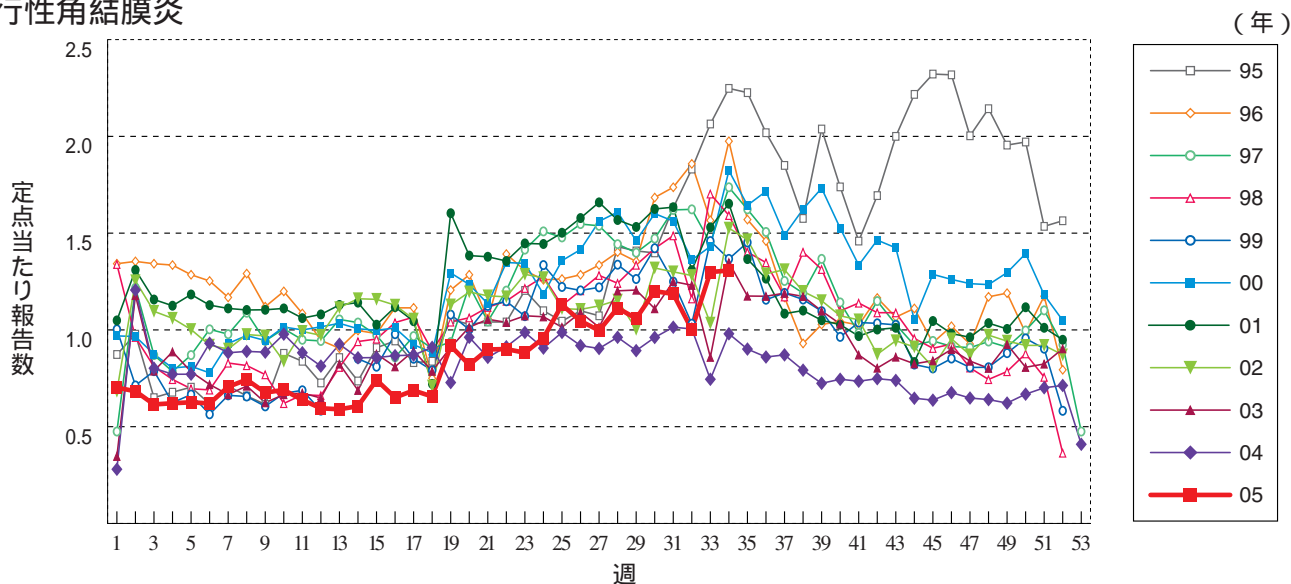
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

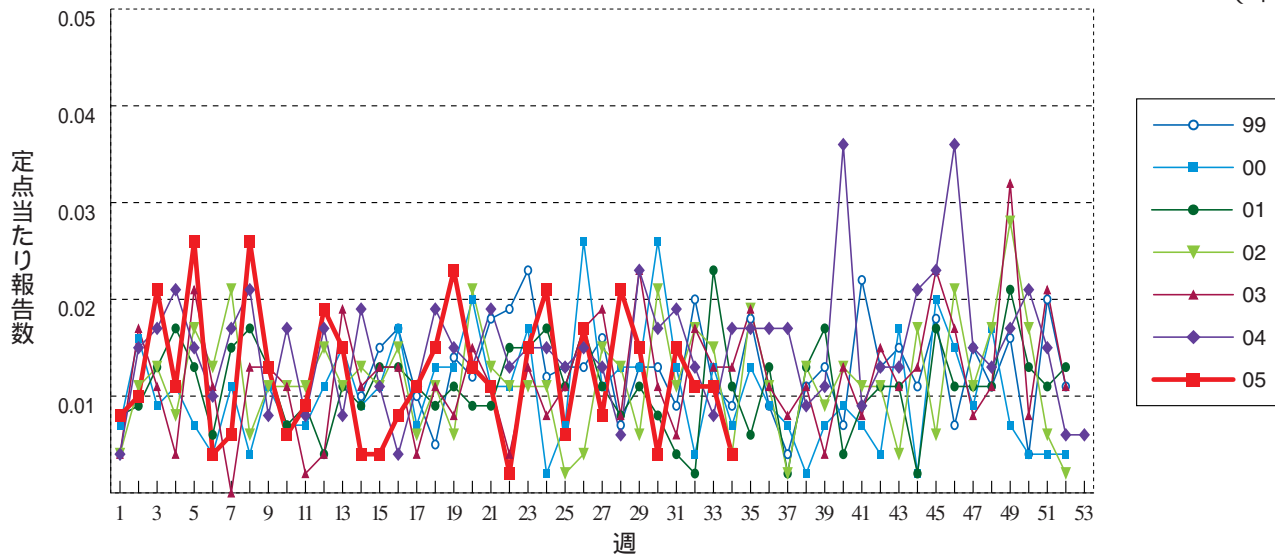


流行性角結膜炎



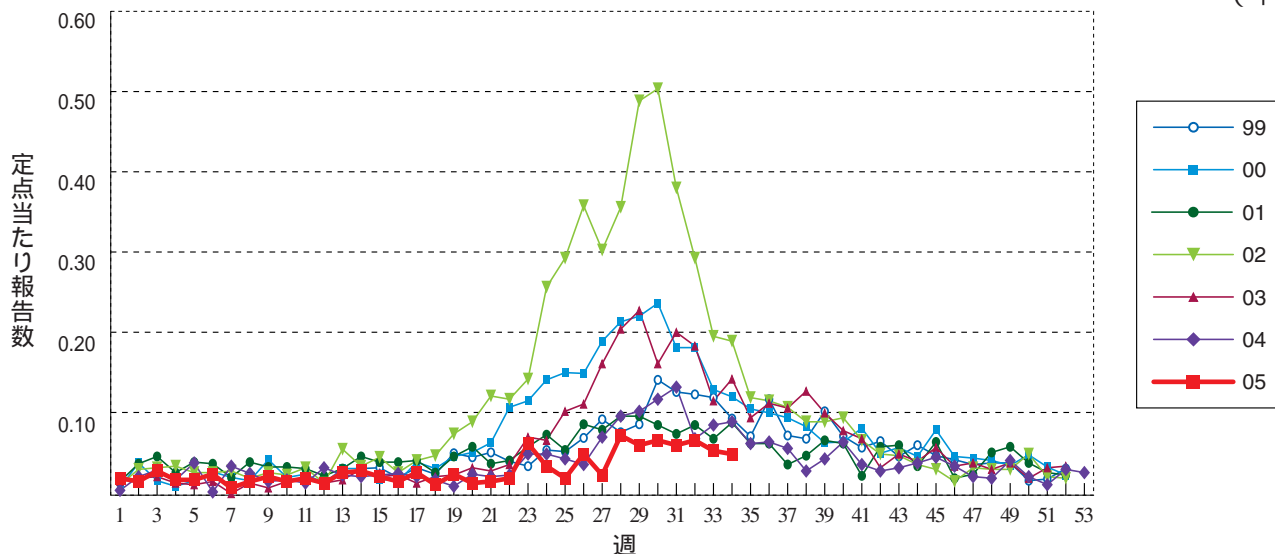
細菌性髄膜炎

(年)



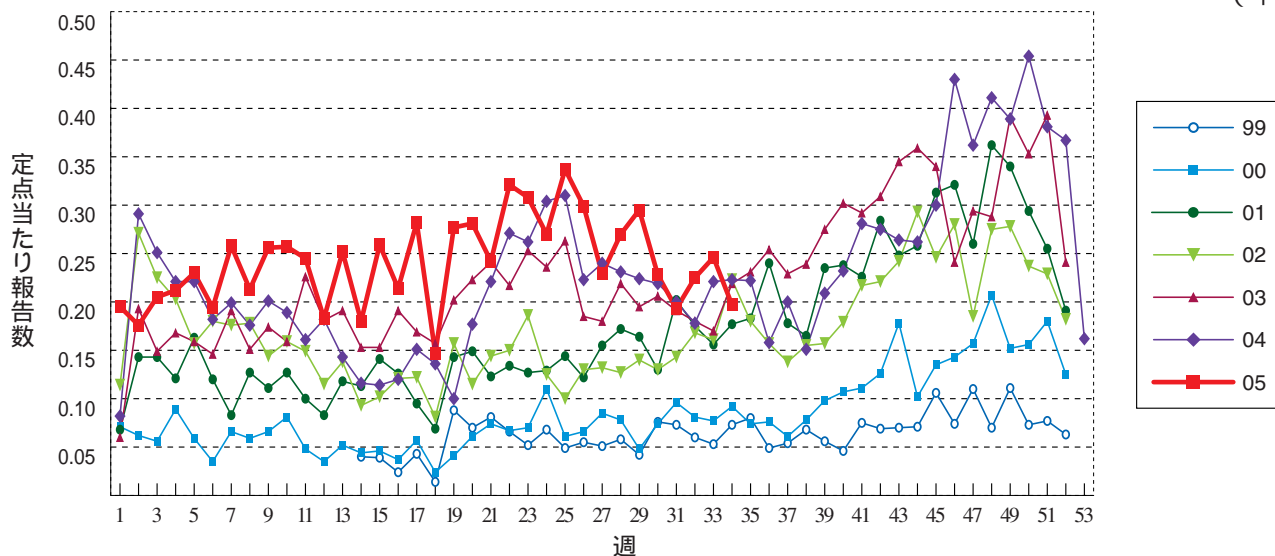
無菌性髄膜炎

(年)



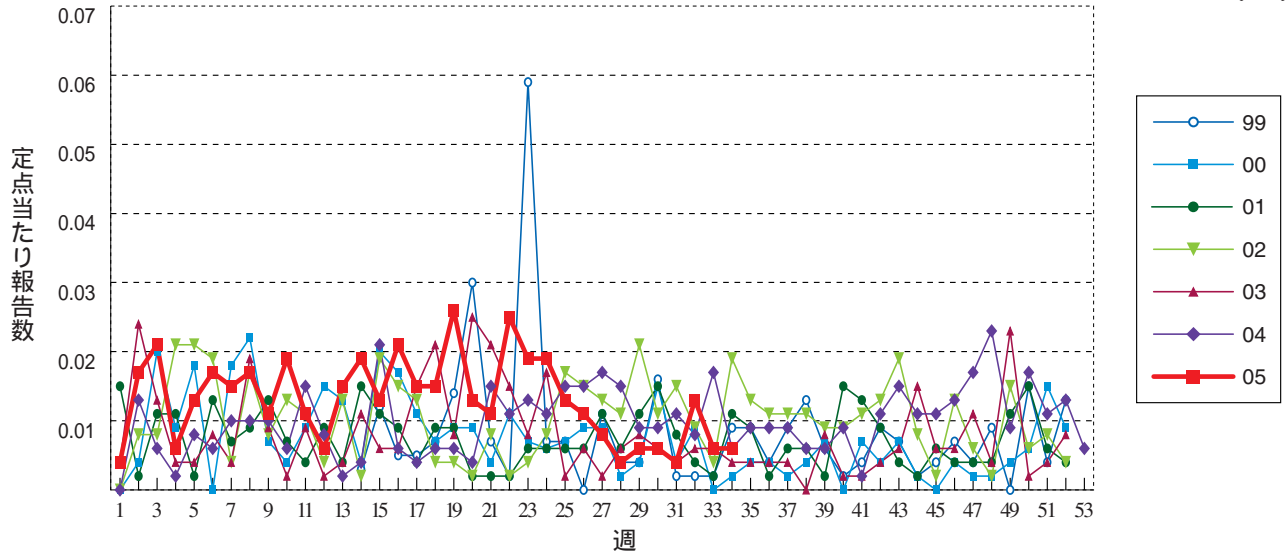
マイコプラズマ肺炎

(年)



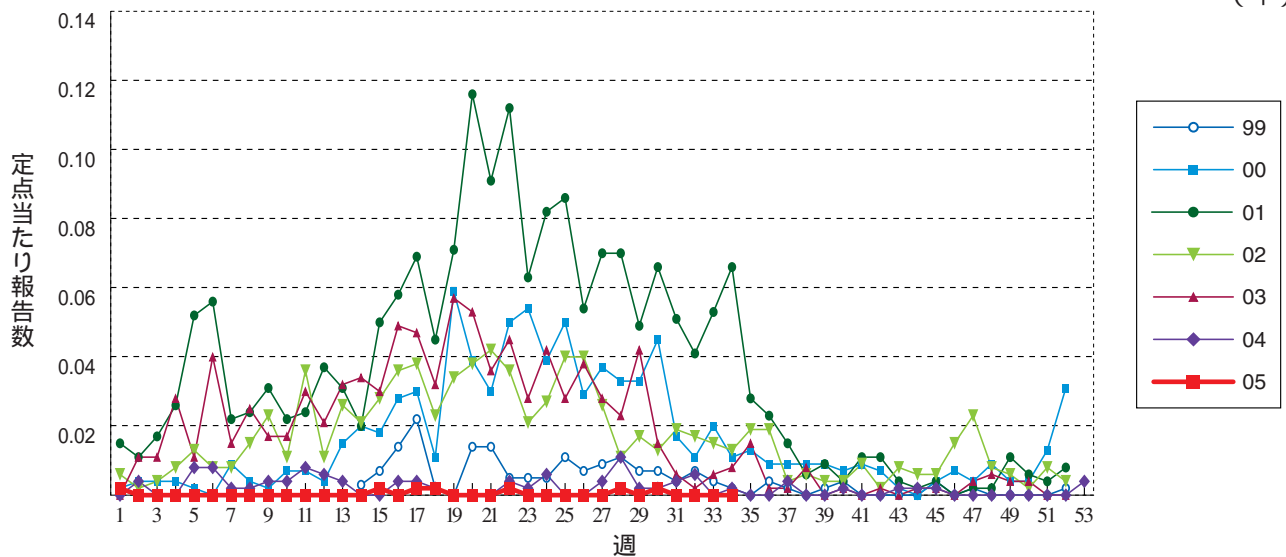
クラミジア肺炎 ( オウム病を除く )

( 年 )



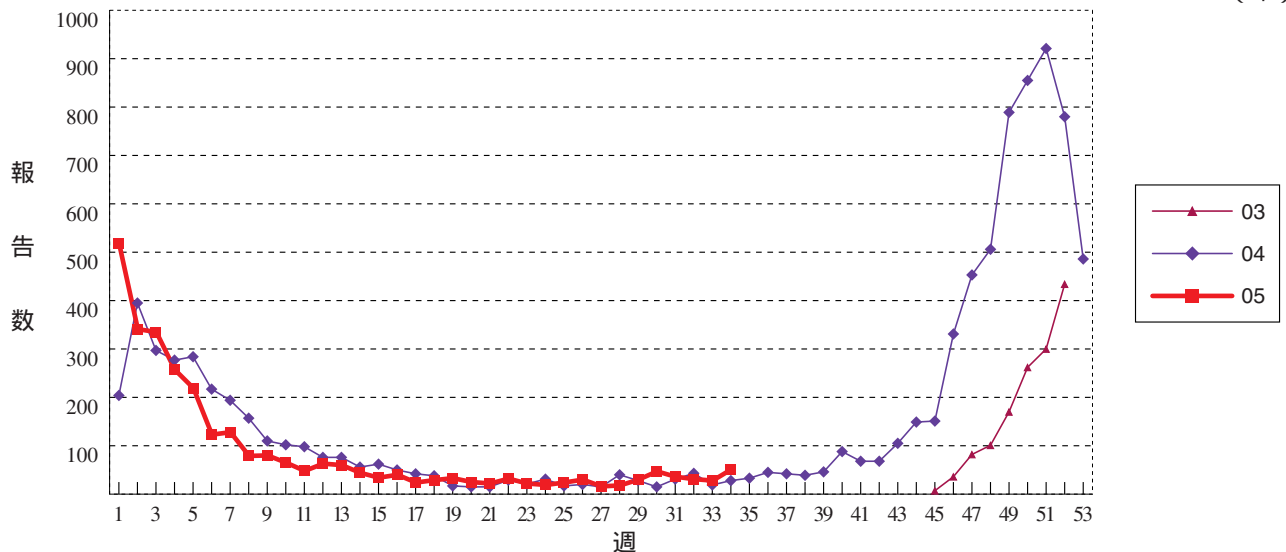
成人麻しん

( 年 )



RSウイルス感染症 定点当たり報告数ではなく、報告数を示しています。

( 年 )





### 34週のデータ

注)表中の報告数は9月1日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

平成17年34週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		パラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	33	9	359	1	33	-	10
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	4	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	2	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	13	-	1	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	30	-	3	-	1	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	55	1	6	-	3	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	18	-	1	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	1	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	56	-	4	-	3	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	1	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	2	58	-	5	-	1	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	7	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	9	-	1	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	23	-	1	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年34週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	177	2190	9	454	-	12	-	-	-	26	-	-	-	187
北海道	-	-	-	-	7	120	1	10	-	11	-	-	-	1	-	-	-	8
青森県	-	-	-	-	4	11	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	21	65	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
宮城県	-	-	-	-	3	71	1	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
秋田県	-	-	-	-	3	43	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	13	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	2	15	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
茨城県	-	-	-	-	-	20	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	1	16	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
群馬県	-	-	-	-	-	33	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
埼玉県	-	-	-	-	5	90	1	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
千葉県	-	-	-	-	4	95	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
東京都	-	-	-	-	17	147	1	123	-	1	-	-	-	2	-	-	-	27
神奈川県	-	-	-	-	5	76	-	37	-	-	-	-	-	1	-	-	-	11
新潟県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	2	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	-	-	-	1	20	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	1	18	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長野県	-	-	-	-	1	34	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
岐阜県	-	-	-	-	2	43	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
静岡県	-	-	-	-	4	50	1	9	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
愛知県	-	-	-	-	18	125	-	35	-	-	-	-	-	4	-	-	-	4
三重県	-	-	-	-	1	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	2	12	1	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	1	32	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大阪府	-	-	-	-	17	151	-	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
兵庫県	-	-	-	-	8	75	-	18	-	-	-	-	-	5	-	-	-	19
奈良県	-	-	-	-	1	28	-	4	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	1	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
鳥取県	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	39	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	10	89	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
広島県	-	-	-	-	4	38	-	9	-	-	-	-	-	2	-	-	-	7
山口県	-	-	-	-	2	35	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	3	14	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	5	19	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	6	104	1	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
佐賀県	-	-	-	-	4	43	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	2	45	-	2	-	-	-	-	-	4	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	-	32	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	2	85	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	4	76	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
鹿児島県	-	-	-	-	3	34	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年34週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプトスボルジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	8	-	-	-	5	2	94	1	40	11	765	-	2	-	44	-	-
北海道	-	1	-	-	-	3	-	5	-	-	-	12	-	-	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	8	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	2	18	-	-	-	3	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	9	-	-	-	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	10	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	20	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	1	-	32	-	-	-	1	-	-
東京都	-	3	-	-	-	1	-	11	-	2	4	275	-	-	-	8	-	-
神奈川県	-	1	-	-	-	1	-	6	-	2	-	36	-	1	-	7	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	3	-	-	-	1	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	4	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	2	15	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	7	-	-	-	1	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	23	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	1	51	-	-	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	9	-	1	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	7	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	3	-	5	1	94	-	-	-	5	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	3	-	19	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	9	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	4	1	2	-	11	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	21	-	-	-	5	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	1	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年34週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群		炭疽		つつが虫病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		梅毒		破傷風	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	8	-	-	-	-	-	104	1	32	1	31	-	-	7	345	2	66
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	4	-	2
青森県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	6	1	4
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2
山形県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	4	-	4
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	-	2
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	5	1	3
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	6	-	3
東京都	-	3	-	-	-	-	-	2	-	9	-	-	-	-	1	50	-	1
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	17	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長野県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	14	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	31	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	8	-	2
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	47	-	1
兵庫県	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	11	-	2
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	7	-	-	-	-	-	2
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1
広島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	5	-	2
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	4
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	4	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1	20	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	2	19	-	3
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	5	-	2
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	1	8	-	-	-	10	-	6
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-



報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年34週

	バンコマイシン 耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス 肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発しんチフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	49	-	-	-	-	-	1	-	-	1	45	-	5	2	142
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	4
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	2
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	3
東京都	-	9	-	-	-	-	-	1	-	-	1	12	-	3	-	14
神奈川県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	3
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	3
富山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
岐阜県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	6
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	9
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大阪府	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	11
兵庫県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	4
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
島根県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
広島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年34週

	重症急性 呼吸器症候群		痘 そ う		E型肝炎		ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)		A型肝炎		高病原性鳥 インフルエンザ		サ ル 痘		ニバウイルス 感染症		ポツリヌス症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	1	32	-	-	-	132	-	-	-	-	-	-	-	2
北海道	-	-	-	-	-	5	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	1	5	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	1
神奈川県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	1	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年34週

	野 兎 病		リッサウイルス 感染症		レプトスピラ症		急性脳炎		バンコマイシン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	4	-	130	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
東京都	-	-	-	-	1	-	13	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	1	-	15	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-

全数把握疾患表注釈

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正( 施行日: 平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照 )により、全数把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

表でみる「重症急性呼吸器症候群」以降の14の疾患は新システムでの追加疾患、および変更疾患(「乳児ボツリヌス症」「ボツリヌス症」「定点疾患「急性脳炎」全数疾患「急性脳炎」)です。「ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)」は平成14年11月に追加された疾患です。

旧システムにおける「ウイルス性肝炎」に含まれていた「E型肝炎」「A型肝炎」が独立した疾患となり、新システムにおける「ウイルス性肝炎」はE型肝炎、A型肝炎を除く肝炎となります。

注)表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・定点当り報告数、疾病・都道府県別

平成17年34週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	101	0.02	1208	0.40	1308	0.43	7184	2.36	1791	0.59	2187	0.72	598	0.20	2590	0.85	34	0.01
北海道	-	-	30	0.21	136	0.94	228	1.57	73	0.50	59	0.41	8	0.06	105	0.72	1	0.01
青森県	-	-	14	0.33	14	0.33	41	0.98	19	0.45	66	1.57	22	0.52	36	0.86	-	-
岩手県	-	-	1	0.03	8	0.22	83	2.24	25	0.68	27	0.73	-	-	29	0.78	-	-
宮城県	-	-	11	0.18	24	0.39	132	2.16	32	0.52	66	1.08	19	0.31	78	1.28	-	-
秋田県	-	-	18	0.51	13	0.37	123	3.51	16	0.46	26	0.74	11	0.31	32	0.91	-	-
山形県	-	-	22	0.73	26	0.87	48	1.60	25	0.83	11	0.37	2	0.07	24	0.80	-	-
福島県	-	-	13	0.27	15	0.31	131	2.73	22	0.46	58	1.21	19	0.40	55	1.15	-	-
茨城県	3	0.03	14	0.19	48	0.65	121	1.64	43	0.58	18	0.24	5	0.07	40	0.54	-	-
栃木県	-	-	7	0.15	8	0.17	48	1.04	15	0.33	34	0.74	4	0.09	27	0.59	1	0.02
群馬県	-	-	9	0.15	24	0.39	147	2.37	34	0.55	113	1.82	3	0.05	48	0.77	-	-
埼玉県	3	0.01	41	0.26	86	0.54	383	2.42	119	0.75	97	0.61	27	0.17	143	0.91	3	0.02
千葉県	2	0.01	29	0.22	60	0.46	255	1.96	66	0.51	36	0.28	31	0.24	80	0.62	1	0.01
東京都	-	-	64	0.45	46	0.32	292	2.06	61	0.43	70	0.49	21	0.15	86	0.61	-	-
神奈川県	1	0.00	50	0.25	54	0.26	391	1.92	104	0.51	143	0.70	70	0.34	159	0.78	-	-
新潟県	3	0.03	12	0.19	40	0.65	82	1.32	57	0.92	162	2.61	5	0.08	58	0.94	-	-
富山県	-	-	8	0.28	14	0.48	94	3.24	16	0.55	52	1.79	3	0.10	39	1.34	1	0.03
石川県	-	-	19	0.66	13	0.45	117	4.03	16	0.55	3	0.10	1	0.03	20	0.69	-	-
福井県	-	-	5	0.23	27	1.23	87	3.95	28	1.27	5	0.23	2	0.09	10	0.45	-	-
山梨県	-	-	37	1.48	9	0.36	34	1.36	20	0.80	3	0.12	4	0.16	11	0.44	-	-
長野県	-	-	30	0.55	29	0.53	123	2.24	42	0.76	21	0.38	21	0.38	43	0.78	1	0.02
岐阜県	-	-	35	0.66	10	0.19	52	0.98	33	0.62	18	0.34	5	0.09	27	0.51	-	-
静岡県	-	-	61	0.71	28	0.33	211	2.45	49	0.57	41	0.48	8	0.09	85	0.99	1	0.01
愛知県	-	-	88	0.48	73	0.40	377	2.07	104	0.57	28	0.15	25	0.14	186	1.02	2	0.01
三重県	1	0.01	11	0.24	15	0.33	189	4.20	52	1.16	17	0.38	8	0.18	43	0.96	-	-
滋賀県	-	-	24	0.73	4	0.12	51	1.55	21	0.64	26	0.79	1	0.03	22	0.67	-	-
京都府	-	-	12	0.16	23	0.31	144	1.92	24	0.32	10	0.13	13	0.17	42	0.56	-	-
大阪府	2	0.01	62	0.31	69	0.35	387	1.95	140	0.71	92	0.46	37	0.19	140	0.71	5	0.03
兵庫県	-	-	46	0.36	32	0.25	331	2.59	69	0.54	84	0.66	22	0.17	100	0.78	1	0.01
奈良県	-	-	8	0.24	14	0.41	84	2.47	22	0.65	23	0.68	2	0.06	25	0.74	-	-
和歌山県	-	-	7	0.23	7	0.23	59	1.90	14	0.45	5	0.16	7	0.23	27	0.87	-	-
鳥取県	-	-	1	0.05	12	0.63	72	3.79	12	0.63	82	4.32	3	0.16	17	0.89	-	-
島根県	-	-	8	0.35	8	0.35	59	2.57	15	0.65	30	1.30	7	0.30	17	0.74	-	-
岡山県	-	-	2	0.04	18	0.33	147	2.72	27	0.50	136	2.52	-	-	42	0.78	1	0.02
広島県	-	-	87	1.16	34	0.45	248	3.31	39	0.52	85	1.13	13	0.17	62	0.83	1	0.01
山口県	-	-	26	0.53	27	0.55	186	3.80	21	0.43	128	2.61	4	0.08	60	1.22	-	-
徳島県	-	-	19	0.83	6	0.26	42	1.83	23	1.00	16	0.70	1	0.04	29	1.26	-	-
香川県	1	0.02	9	0.28	3	0.09	71	2.22	14	0.44	41	1.28	13	0.41	26	0.81	1	0.03
愛媛県	-	-	40	1.08	21	0.57	139	3.76	18	0.49	93	2.51	8	0.22	45	1.22	-	-
高知県	-	-	23	0.74	8	0.26	51	1.65	14	0.45	4	0.13	2	0.06	10	0.32	2	0.06
福岡県	-	-	85	0.71	70	0.58	420	3.50	64	0.53	47	0.39	50	0.42	161	1.34	10	0.08
佐賀県	-	-	13	0.57	11	0.48	49	2.13	25	1.09	17	0.74	2	0.09	28	1.22	1	0.04
長崎県	-	-	13	0.30	14	0.32	86	1.95	24	0.55	21	0.48	8	0.18	29	0.66	-	-
熊本県	-	-	26	0.54	23	0.48	117	2.44	33	0.69	22	0.46	16	0.33	64	1.33	-	-
大分県	-	-	47	1.31	20	0.56	201	5.58	26	0.72	13	0.36	5	0.14	37	1.03	-	-
宮崎県	1	0.02	10	0.27	38	1.03	250	6.76	14	0.38	22	0.59	13	0.35	63	1.70	1	0.03
鹿児島県	4	0.04	8	0.14	22	0.39	160	2.86	38	0.68	6	0.11	45	0.80	62	1.11	-	-
沖縄県	80	1.38	3	0.09	4	0.12	41	1.21	23	0.68	10	0.29	2	0.06	18	0.53	-	-

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成17年34週

	風しん		ヘルパンギーナ		麻しん (成人麻しんを除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ 肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	21	0.01	3526	1.16	12	0.00	3625	1.19	21	0.03	847	1.31	2	0.00	24	0.05	93	0.20
北海道	3	0.02	213	1.47	1	0.01	81	0.56	-	-	12	0.40	-	-	-	-	3	0.13
青森県	3	0.07	114	2.71	1	0.02	30	0.71	-	-	11	1.00	-	-	-	-	2	0.33
岩手県	-	-	58	1.57	-	-	22	0.59	-	-	12	1.00	-	-	1	0.05	2	0.10
宮城県	1	0.02	73	1.20	-	-	68	1.11	-	-	7	0.58	-	-	-	-	7	0.58
秋田県	-	-	36	1.03	-	-	12	0.34	-	-	-	-	-	-	5	0.63	4	0.50
山形県	-	-	33	1.10	-	-	44	1.47	-	-	5	0.63	-	-	-	-	4	0.40
福島県	-	-	49	1.02	-	-	54	1.13	-	-	17	1.42	-	-	-	-	6	0.86
茨城県	-	-	31	0.42	1	0.01	142	1.92	-	-	23	1.44	-	-	-	-	2	0.18
栃木県	-	-	30	0.65	-	-	33	0.72	2	0.17	20	1.67	-	-	-	-	3	0.43
群馬県	-	-	91	1.47	-	-	41	0.66	-	-	40	2.86	-	-	-	-	6	0.60
埼玉県	1	0.01	166	1.05	1	0.01	150	0.95	3	0.08	45	1.13	-	-	-	-	3	0.33
千葉県	-	-	95	0.73	1	0.01	157	1.21	-	-	18	0.51	-	-	-	-	1	0.11
東京都	4	0.03	97	0.68	-	-	111	0.78	-	-	15	1.07	-	-	2	0.08	-	-
神奈川県	1	0.00	157	0.77	2	0.01	210	1.03	-	-	70	1.67	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	223	3.60	-	-	39	0.63	-	-	3	0.30	-	-	-	-	7	0.54
富山県	-	-	22	0.76	-	-	62	2.14	-	-	9	1.29	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	53	1.83	-	-	100	3.45	-	-	5	0.71	-	-	2	0.40	2	0.40
福井県	-	-	50	2.27	-	-	54	2.45	-	-	4	1.33	-	-	-	-	1	0.17
山梨県	-	-	21	0.84	-	-	14	0.56	-	-	9	3.00	-	-	-	-	2	0.20
長野県	-	-	162	2.95	-	-	87	1.58	-	-	11	1.00	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	41	0.77	-	-	62	1.17	-	-	24	2.00	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	77	0.90	1	0.01	127	1.48	-	-	22	1.10	-	-	-	-	4	0.40
愛知県	-	-	93	0.51	1	0.01	202	1.11	2	0.06	56	1.60	-	-	-	-	1	0.08
三重県	-	-	79	1.76	-	-	45	1.00	-	-	49	4.08	-	-	-	-	2	0.22
滋賀県	1	0.03	53	1.61	-	-	39	1.18	-	-	2	0.29	-	-	1	0.14	-	-
京都府	-	-	54	0.72	-	-	61	0.81	-	-	23	1.28	-	-	-	-	1	0.14
大阪府	1	0.01	143	0.72	-	-	186	0.94	1	0.02	35	0.67	1	0.07	1	0.07	6	0.43
兵庫県	-	-	213	1.66	1	0.01	131	1.02	1	0.03	39	1.11	-	-	-	-	1	0.07
奈良県	-	-	19	0.56	-	-	54	1.59	-	-	6	0.67	-	-	1	0.17	-	-
和歌山県	-	-	27	0.87	-	-	47	1.52	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	18	0.95	-	-	22	1.16	-	-	7	2.33	-	-	3	0.60	-	-
島根県	-	-	32	1.39	-	-	18	0.78	-	-	4	1.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	2	0.04	53	0.98	-	-	58	1.07	-	-	19	1.58	-	-	-	-	4	0.80
広島県	1	0.01	72	0.96	-	-	154	2.05	1	0.05	25	1.25	-	-	1	0.05	2	0.11
山口県	-	-	38	0.78	-	-	36	0.73	-	-	9	1.00	-	-	-	-	6	0.67
徳島県	-	-	30	1.30	-	-	61	2.65	1	0.25	1	0.25	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	31	0.97	-	-	106	3.31	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	55	1.49	-	-	74	2.00	1	0.13	42	5.25	-	-	1	0.17	1	0.17
高知県	-	-	17	0.55	-	-	20	0.65	-	-	7	2.33	-	-	-	-	4	0.57
福岡県	-	-	169	1.41	2	0.02	156	1.30	4	0.15	34	1.31	-	-	1	0.07	-	-
佐賀県	-	-	56	2.43	-	-	29	1.26	-	-	2	0.50	1	0.17	1	0.17	1	0.17
長崎県	1	0.02	51	1.16	-	-	70	1.59	5	0.63	18	2.25	-	-	2	0.17	1	0.08
熊本県	-	-	77	1.60	-	-	114	2.38	-	-	16	1.78	-	-	1	0.07	1	0.07
大分県	-	-	92	2.56	-	-	32	0.89	-	-	5	1.00	-	-	-	-	1	0.09
宮崎県	1	0.03	100	2.70	-	-	53	1.43	-	-	12	3.00	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	27	0.48	-	-	47	0.84	-	-	5	0.71	-	-	1	0.08	2	0.17
沖縄県	1	0.03	35	1.03	-	-	110	3.24	-	-	46	4.60	-	-	-	-	-	-

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成17年34週

	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻しん		RSウイルス 感染症 報告数
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	
総 数	3	0.01	-	-	51
北海道	-	-	-	-	3
青森県	-	-	-	-	...
岩手県	-	-	-	-	...
宮城県	-	-	-	-	6
秋田県	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-
福島県	3	0.43	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	1
栃木県	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	...
埼玉県	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	3
神奈川県	-	-	-	-	3
新潟県	-	-	-	-	...
富山県	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	...
福井県	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	...
愛知県	-	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	7
滋賀県	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	1
兵庫県	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	...
和歌山県	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	...
広島県	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	4
徳島県	-	-	-	-	...
香川県	-	-	-	-	...
愛媛県	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	...
福岡県	-	-	-	-	...
佐賀県	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	...
熊本県	-	-	-	-	...
大分県	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	...
鹿児島県	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	21

**定点把握疾患表注釈**

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正( 施行日:平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照 )により、定点把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

改正により「RSウイルス感染症」が追加されましたが、ゼロ報告も含めて報告自体がなされていない都道府県( ... )が多く見られ、その報告はまだ十分ではありません。そのため、「感染症週報」の情報還元としては、報告数のみの掲載とします。宜しく御理解ください。

## 獣医師が届出を行う感染症と対象動物

平成16年10月1日より感染症法に基づく獣医師が届出を行う感染症と対象動物が追加されました。  
\*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年34週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群*						細菌性赤痢		ウエストナイル熱		エキノコックス症	
	サル		サル		プレーリードッグ	イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		鳥類		犬		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-	-	2	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

感染症週報 第7巻 第34号 平成17年9月9日発行  
発行：国立感染症研究所  
厚生労働省健康局結核感染症課  
厚生労働省大臣官房統計情報部  
事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
T E L : 03-5285-1111  
F A X : 03-5285-1129  
U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>  
< 国立感染症研究所 感染症情報センター >  
<http://www.mhlw.go.jp/>  
< 厚生労働省 >  
<http://www.forth.go.jp/>  
< 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。